

Windows 版 VMware Horizon View Client の使用

Horizon View 5.4

このドキュメントは新しいエディションに置き換わるまで、ここで書いてある各製品と後続のすべてのバージョンをサポートします。このドキュメントの最新版をチェックするには、<http://www.vmware.com/jp/support/pubs> を参照してください。

JA-001158-01

vmware[®]

最新の技術ドキュメントは VMware の Web サイト (<http://www.vmware.com/jp/support/>) にあります
VMware の Web サイトでは最新の製品アップデートも提供されています。

このドキュメントに関するご意見およびご感想がある場合は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

Copyright © 2012, 2013 VMware, Inc. 無断転載を禁ず。本製品は、米国著作権法および米国知的財産法ならびに国際著作権法および国際知的財産法により保護されています。VMware 製品には、<http://www.vmware.com/go/patents-jp> に列記されている 1 つ以上の特許が適用されます。

VMware は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。他のすべての名称ならびに製品についての商標は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

ヴイエムウェア株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

目次

Windows 版 VMware Horizon View Client の使用	5
1 Windows ベースの View Client のシステム要件とセットアップ	7
Windows クライアントのシステム要件	7
リアルタイム オーディオ ビデオのシステム要件	9
マルチメディア リダイレクト (MMR) の使用の要件	9
Flash URL リダイレクトの使用の要件	10
Horizon View Client で Microsoft Lync を使用するための要件	10
スマート カード認証の要件	11
View Portal のクライアント ブラウザ要件	12
サポートされている View デスクトップのオペレーティング システム	12
View Client 向けの View 接続サーバの準備	13
VMware が収集する View Client のデータ	13
2 Windows 版 View Client のインストール	15
Windows 版 View Client のインストール	15
View Portal を使用して View Client をインストールする	17
View Portal で表示される View Client のダウンロード リンクを構成	18
View Client のサイレント インストール	19
3 エンド ユーザー用に View Client を構成	25
URI を使用して View Client を構成	25
エンド ユーザーの証明書確認の構成	29
4 コマンド ラインからの View Client の実行	31
View Client コマンドの使用法	31
View Client の構成ファイル	33
View Client のレジストリ設定	34
5 サーバ接続とデスクトップの管理	35
View デスクトップへのログイン	35
デスクトップの切り替え	37
デスクトップからのログオフまたは切断	38
6 View デスクトップの操作	39
機能サポート一覧	39
国際化	41
USB デバイスの接続	41
Webcam とマイクロフォンでリアルタイム オーディオ ビデオ機能を使用	44
テキストとイメージのコピー アンド ペースト	46
View デスクトップからの印刷	47

Adobe Flash の表示の制御 48
CAD および 3D アプリケーション用の相対マウス機能の使用 48

- 7 ローカル モードのデスクトップで作業 51
 - ローカル モード デスクトップの最初のチェックアウト 51
 - ローカル デスクトップのシャットダウンまたはサスペンド 52
 - デスクトップのバックアップ 52
 - デスクトップのチェックイン 53
 - デスクトップのロールバック 53
 - エンドポイント リソースの使用方法の構成 54

- 8 View Client のトラブルシューティング 59
 - View Client が予期せずに終了する場合の対処 59
 - デスクトップのリセット 59
 - View Client のアンインストール 60

- インデックス 61

Windows 版 VMware Horizon View Client の使用

本『Windows 版 VMware Horizon View Client の使用』ガイドは、データセンターで View デスクトップに接続するために Microsoft Windows クライアントシステムに VMware Horizon View™ ソフトウェアをインストールして使用する情報を提供します。

本ドキュメントの情報には、Windows 版 Horizon View Client のインストールおよび使用のためのシステム要件および説明が含まれます。

この情報は、デスクトップやノート PC などの Microsoft Windows クライアントシステムを含む Horizon View 導入設定を行う必要がある管理者向けです。これらの情報は、仮想マシンテクノロジーおよびデータセンターの運用に精通している経験豊富なシステム管理者向けに記述されています。

Windows ベースの View Client のシステム要件とセットアップ

1

View クライアント コンポーネントが動作しているシステムは、一定のハードウェアおよびソフトウェア要件を満たす必要があります。

View 接続サーバに接続している場合、Windows システムの View Client は Microsoft Internet Explorer のインターネット設定を使用します。Internet Explorer 設定が正確で、Internet Explorer を介して View 接続サーバの URL にアクセスできることを確認してください。

この章では次のトピックについて説明します。

- [Windows クライアントのシステム要件 \(P. 7\)](#)
- [リアルタイム オーディオ ビデオのシステム要件 \(P. 9\)](#)
- [マルチメディア リダイレクト \(MMR\) の使用の要件 \(P. 9\)](#)
- [Flash URL リダイレクトの使用の要件 \(P. 10\)](#)
- [Horizon View Client で Microsoft Lync を使用するための要件 \(P. 10\)](#)
- [スマート カード認証の要件 \(P. 11\)](#)
- [View Portal のクライアント ブラウザ要件 \(P. 12\)](#)
- [サポートされている View デスクトップのオペレーティングシステム \(P. 12\)](#)
- [View Client 向けの View 接続サーバの準備 \(P. 13\)](#)
- [VMware が収集する View Client のデータ \(P. 13\)](#)

Windows クライアントのシステム要件

Windows 版 View Client を、Microsoft Windows 8、Windows 7、Vista、または XP オペレーティングシステムを使用する PC またはノート PC にインストールできます。

View Client をインストールする PC またはノート PC とその周辺機器は、一定のシステム要件を満たしている必要があります。

モデル 標準の x86 または x86 64 ビット互換のデスクトップまたはノートブック コンピュータ

メモリ 1GB 以上の RAM

オペレーティング システム

OS	バージョン	SP
Windows 8 デスクトップ	32 ビットまたは 64 ビット	該当なし
Windows 7	32 ビットまたは 64 ビット	なし、または SP1

OS	バージョン	SP
Windows XP	32 ビット	SP3
Windows Vista	32 ビット	SP1 または SP2

Windows 7 および Windows Vista では、以下のエディションがサポートされます。Home、Enterprise、Professional、Ultimate。Windows XP では、Home および Professional エディションがサポートされています。

Windows 8 では、以下のエディションがサポートされます。Windows 8 Pro - デスクトップおよび Windows 8 Enterprise - デスクトップ。

View 接続サーバ、セキュリティ サーバ、および View Agent

4.6.1 以降のバージョン

企業のファイアウォールの外部からクライアントシステムが接続する場合には、セキュリティ サーバを使用することを推奨します。セキュリティ サーバでは、クライアントシステムで VPN 接続が必要にはなりません。

Horizon View 用の表示プロトコル

PCoIP または RDP

PCoIP のハードウェア要件

- SSE2 拡張命令に対応する x86 ベースのプロセッサ。800MHz 以上のプロセッサ処理速度。

- さまざまなモニタ セットアップをサポートするための、システム要件を超える RAM 空き容量。一般的な目安として次の式を使用してください。

$$20\text{MB} + (24 * (\# \text{ monitors}) * (\text{monitor width}) * (\text{monitor height}))$$

大まかな目安として、次の計算が使用できます。

1 monitor: 1600 x 1200: 64MB

2 monitors: 1600 x 1200: 128MB

3 monitors: 1600 x 1200: 256MB

RDP のハードウェア要件

- SSE2 拡張命令に対応する x86 ベースのプロセッサ。800MHz 以上のプロセッサ処理速度。
- 128MB RAM。

RDP のソフトウェア要件

- 複数モニタには、RDC 6.0 以降が必要です。
- Windows XP および Windows XP Embedded システムの場合、Microsoft RDC 6.x を使用します。
- Windows Vista には RDC 6.x が含まれていますが、推奨されているのは RDC 7 です。
- Windows 7 には RDC 7 が含まれます。Windows 7 SP1 には RDC 7.1 が含まれます。
- Windows XP デスクトップ仮想マシンの場合は、Microsoft サポート技術情報 (KB) の記事 323497 および 884020 で示されている RDP パッチをインストールする必要があります。RDP パッチをインストールしないと、**Windows ソケットの失敗エラー** メッセージがクライアントで発生する場合があります。

- View Agent インストーラによって、ホスト OS の現在の RDP ポート（通常は 3389）に合わせて受信 RDP 接続のローカル ファイアウォール ルールが構成されます。この RDP ポート番号を変更する場合は、関連するファイアウォール ルールも変更する必要があります。

RDC の各バージョンは Microsoft の Web サイトからダウンロードできます。

リアルタイム オーディオ ビデオのシステム要件

リアルタイム オーディオ ビデオは、標準的な webcam、USB オーディオ、およびアナログ オーディオ デバイス、そして Skype、Webex、および Google Hangouts などの標準的な会議アプリケーションで動作します。リアルタイム オーディオ ビデオをサポートするには、Horizon View の展開が特定のソフトウェアおよびハードウェア要件を満たす必要があります。

Horizon View デスクトップ

デスクトップには View Agent 5.2 をインストールする必要があります。リアルタイム オーディオ ビデオは、View Agent 5.2 をサポートするすべての Windows ゲスト OS でサポートされます。

デスクトップには最新の Remote Experience Agent をインストールする必要もあります。VMware Horizon View 5.2 Feature Pack 2 については、『VMware Horizon View 機能パック インストールおよび管理ガイド』を参照してください。

Horizon View Client ソフトウェア

Windows 版 Horizon View Client 5.4 以降のリリース

View Client コンピュータまたはクライアントアクセスデバイス

- リアルタイム オーディオ ビデオは、Windows 版 Horizon View Client を実行するすべてのオペレーティング システムでサポートされます。詳細については、『[Windows クライアントのシステム要件 \(P. 7\)](#)』を参照してください。
- webcam およびオーディオ デバイス ドライバをインストールする必要があります。webcam がクライアント コンピュータで操作可能である必要があります。リアルタイム オーディオ ビデオをサポートするために、View Agent がインストールされているデスクトップ オペレーティング システムにデバイス ドライバをインストールする必要はありません。

Horizon View 用の表示プロトコル

PCoIP

リアルタイム オーディオ ビデオは、RDP デスクトップ セッションでサポートされません。

マルチメディア リダイレクト (MMR) の使用の要件

マルチメディア リダイレクト (MMR) は、仮想チャネルを使用して、クライアント コンピュータにマルチメディア ストリームを直接配信します。

MMR を使用すると、クライアント システムでマルチメディア ストリームが処理 (デコード) されます。クライアント システムはメディア コンテンツを再生し、それによって ESXi ホストの要求を開放します。

View Client は以下のオペレーティング システムで MMR をサポートします。

- Windows XP
- Windows XP Embedded
- Windows Vista

MMR 機能はクライアント システムがサポートするメディア ファイル形式をサポートするので、クライアントにローカル デコーダが存在する必要があります。ファイル形式としては、MPEG2-1/MPEG-2/MPEG-4 Part 2、WMV 7/8/9、WMA、AVI、ACE、MP3、WAV などが該当します。

Windows Media Player 10 以降を使用し、それをローカル コンピュータまたはクライアント アクセス デバイスと View デスクトップの両方にインストールします。

MMR ポートをファイアウォール ソフトウェアに例外として追加する必要があります。MMR のデフォルトのポートは 9427 です。

注意 MMR が正しく動作するには、View Client のビデオ再生ハードウェアがオーバーレイをサポートしている必要があります。

Windows 7 および 8 クライアントと Windows 7 および 8 View デスクトップは、MMR をサポートしていません。これらのクライアントおよびエージェントの場合は、RDP 7 以降に含まれている Windows メディア リダイレクト機能を使用してください。

Flash URL リダイレクトの使用の要件

Adobe Media Server からクライアント エンドポイントに Flash コンテンツを直接ストリーミングするとデータセンター ESXi ホストへの負荷が軽減され、データセンターを経由する余分なルーティングが不要になり、複数のクライアント エンドポイントにライブ ビデオ イベントを同時にストリームするために必要となる帯域幅が削減されます。

Flash URL リダイレクト機能は、Web ページの管理者によって Web ページ内に組み込まれた JavaScript を使用します。仮想デスクトップユーザーが Web ページ内に指定された URL リンクをクリックすると、JavaScript は、ShockWave ファイル (SWF) をインターセプトし、仮想デスクトップセッションからクライアント エンドポイントにリダイレクトします。エンドポイントは次に仮想デスクトップ セクションの外のローカル VMware Flash Multicast Player を開き、メディア ストリームをローカルで再生します。

VMware Horizon View 5.2 Feature Pack 2 を併用すれば、この機能を使用できます。この機能を使用するには、Web ページおよびクライアント デバイスをセットアップする必要があります。クライアント システムは、一定のソフトウェア要件を満たす必要があります。

- クライアント システムは、Horizon View Client 5.4 以降を使用する必要があります。
- クライアント システムは、マルチキャスト ストリーミングを開始する ShockWave ファイル (SWF) をホストする Adobe Web サーバに IP 接続する必要があります。必要に応じて、クライアント デバイスがこのサーバにアクセスすることを許可するために適切なポートを開くためにファイアウォールを構成します。
- クライアント システムには、Internet Explorer (ActiveX を使用している) 用の Adobe Flash Player 10.1 以降が必要です。

Flash URL リダイレクトの View デスクトップ要件のリスト、そしてマルチキャスト ストリームを提供するために Web ページを構成する方法については、『VMware Horizon View 機能パック インストールおよび管理ガイド』を参照してください。

Horizon View Client で Microsoft Lync を使用するための要件

Horizon View 5.2 では、顧客は View デスクトップで Microsoft Lync 2013 クライアントを使用して Unified Communications (UC) VoIP (voice over IP) および Lync が承認した USB オーディオおよびビデオ デバイスでビデオ チャット電話に参加できます。専用の IP 電話が不要になります。

この新しいアーキテクチャでは、View デスクトップに Microsoft Lync 2013 クライアントおよびクライアント エンドポイントに Microsoft Lync VDI プラグインのインストールが必要です。顧客は Microsoft Lync 2013 クライアントを使用して、プレゼンス、インスタント メッセージ、Web 会議、および Microsoft Office 機能を使用できます。

Lync VoIP またはビデオ チャットが行われると、Lync VDI プラグインはデータセンター サーバからクライアント エンドポイントにすべてのメディア処理をオフロードし、すべてのメディアを Lync で最適化されたオーディオおよびビデオ codec にエンコードします。この最適化されたアーキテクチャは非常にスケーラブルで、低いネットワーク帯域幅を使用し、非常に品質の高いリアルタイム VoIP およびビデオがサポートされたポイントツーポイントのメディア配信を提供します。

注意 オーディオ録音はサポートされません。この統合は、PCoIP 表示プロトコルでのみサポートされます。

この機能には次の要件があります。

オペレーティング システム

- クライアント オペレーティング システム : 32 または 64 ビットの Windows 7 SP1 または Windows 8
- 仮想マシン (エージェント) オペレーティング システム : 32 または 64 ビットの Windows 7 SP1

クライアント システム ソフトウェア

- Windows 版 Horizon View Client 5.3 以降 (Windows 8 クライアント システムの場合は Horizon View Client 5.4)
- Microsoft Lync VDI プラグインの 32 ビットバージョン

重要 Microsoft Office の 64 ビットバージョンは、クライアント マシンにインストールする必要はありません。必要となる 32 ビット Microsoft Lync VDI プラグインは、64 ビット Microsoft Office 2013 と互換性はありません。

- Microsoft Lync Server 2013 展開中に生成されたセキュリティ証明書は、信頼されたルート証明機関のディレクトリにインポートする必要があります

View デスクトップ (エージェント) ソフトウェア

- Horizon View Agent 5.2
- Microsoft Lync 2013 クライアント

Lync 2013 クライアントのビット レベルは、仮想マシン オペレーティング システムのビット レベルと一致する必要があります。

- Microsoft Lync Server 2013 展開中に生成されたセキュリティ証明書は、信頼されたルート証明機関のディレクトリにインポートする必要があります

必要なサーバ

- View 接続サーバ 5.2 を実行しているサーバ
- Microsoft Lync Server 2013 を実行しているサーバ
- 仮想マシンをホストするための vSphere インフラストラクチャ

vCenter Server および ESXi ホストは、vSphere 5.0 以降を実行する必要があります。

ハードウェア

- 以前にリストした必要なソフトウェア コンポーネントのそれぞれをサポートするハードウェア
- クライアント エンドポイント : 1.5GHz またはそれより高速の CPU および Microsoft Lync 2013 プラグイン用に最小 2GB の RAM

スマート カード 認証の要件

ユーザー認証にスマート カードを使用するクライアント システムは、特定の要件を満たす必要があります。

ユーザー認証にスマート カードを使用する各クライアント システムには、次のソフトウェアおよびハードウェアが必要です。

- View Client
- Windows 互換のスマート カード リーダ
- スマート カード ミドルウェア
- 製品固有のアプリケーション ドライバ

また、製品固有のアプリケーション ドライバを View デスクトップにインストールする必要もあります。

View では、PKCS#11 または Microsoft CryptoAPI プロバイダを使用するスマート カードおよびスマート カードリーダーがサポートされています。必要に応じて、ActivIdentity ActivClient ソフトウェア スイートをインストールできます。このソフトウェアは、スマート カードと対話するためのツールを提供します。

スマート カードで認証を行うユーザーはスマート カードまたは USB スマート カード トークンを所有している必要があり、各スマート カードにはユーザー証明書が含まれる必要があります。

スマート カードに証明書をインストールするには、登録局として機能するようにコンピュータを設定する必要があります。このコンピュータは、ユーザーにスマート カードを発行するための権限を持っている必要があり、証明書を発行するドメインのメンバーである必要があります。

重要 スマート カードを登録するときに、生成される証明書の鍵サイズを選択できます。ローカル デスクトップでスマート カードを使用するには、スマートカードの登録時に 1024 ビットまたは 2048 ビットのキー サイズを選択する必要があります。512 ビットの鍵の証明書はサポートされていません。

Microsoft TechNet の Web サイトでは、Windows システム用にスマート カード認証を計画して実装する方法についての詳細情報が提供されています。

View Client システムのこれらの要件を満たすことに加えて、他の View コンポーネントは、スマート カードをサポートするための特定の構成要件を満たす必要があります。

- スマート カードの使用をサポートするための View Server の構成についての詳細は、『VMware Horizon View 管理ガイド』のトピック「スマート カード認証の構成」を参照してください。
- スマート カード認証のために Active Directory で実行する必要があるタスクについては、『VMware Horizon View のインストール』マニュアルのスマート カード認証のための Active Directory の準備に関するトピックを参照してください。

View Portal のクライアント ブラウザ要件

クライアントシステムから、ブラウザを開いて View 接続サーバ インスタンスをブラウズできます。表示される Web ページは、View Portal と呼ばれ、このページには View Client のインストーラ ファイルをダウンロードするためのリンクが含まれています。

View Portal を使用するには、次のいずれかの Web ブラウザが必要です。

- Internet Explorer 8
- Internet Explorer 9
- Internet Explorer 10 (デスクトップ モードで Windows 8 システムから)
- Firefox 6 以降のリリース
- Safari 5 (Mac 版)
- Chrome 14 以降

サポートされている View デスクトップのオペレーティング システム

管理者は、ゲスト オペレーティング システムを使用して仮想マシンを作成し、そのゲスト オペレーティング システムに View Agent をインストールします。エンド ユーザーは、クライアント デバイスからこれらの仮想マシンにログインできます。

サポートされているオペレーティング システムのリストについては、Horizon View 4.6.x または 5.x インストール ガイドの「View Agent でサポートされているオペレーティング システム」トピックを参照してください。

View Client 向けの View 接続サーバの準備

エンドユーザーが View デスクトップに接続できるようにするには、特定のタスクを管理者が実行する必要があります。

エンドユーザーが View 接続サーバまたはセキュリティ サーバに接続して、View デスクトップにアクセスできるようにするには、プールの設定およびセキュリティの設定を構成する必要があります。

- セキュリティ サーバを使用している場合、VMware では、View 接続サーバ 4.6.1 以降および View セキュリティ サーバ 4.6.1 以降の使用を確認することを推奨しています。『VMware Horizon View インストール ガイド』を参照してください。
- クライアント デバイスに安全なトンネル接続を使用する予定で、その安全な接続が View 接続サーバまたはセキュリティ サーバの DNS ホスト名を使用して構成される場合には、この DNS 名がクライアント デバイスによって解決できることを確認します。

安全なトンネルを有効または無効にするには、View Administrator で [View 接続サーバ設定の編集] ダイアログ ボックスに移動して、[デスクトップへの安全なトンネル接続を使用する] チェックボックスを使用します。

- 仮想デスクトップ プールが作成され、使用予定のユーザ アカウントに View デスクトップにアクセスする資格が付与されていることを確認します。『VMware Horizon View 管理ガイド』のデスクトッププールの作成についてのトピックを参照してください。
- View Client で、RSA SecurID または RADIUS 認証などの 2 要素認証を使用するには、View 接続サーバでこの機能を有効にする必要があります。RADIUS 認証は、View 5.1 以降の View 接続サーバで使用できます。詳細については、『VMware Horizon View 管理ガイド』の 2 要素認証についてのトピックを参照してください。

VMware が収集する View Client のデータ

所属する企業がカスタマー エクスペリエンス向上プログラムに参加している場合、VMware は Horizon View Client の特定フィールドのデータを収集します。機密情報が含まれるフィールドは、匿名扱いとなります。

注意 この機能は、現在の Horizon View の配置が View 接続サーバ 5.1 以降を実装している場合に限り使用できます。View Client 5.3 以降のクライアントの場合、クライアント情報が送信されます。

VMware は、クライアント上で情報を収集し、ハードウェアとソフトウェアの互換性を優先度付けします。社内の管理者がカスタマー エクスペリエンス向上プログラムへの参加を決めた場合、VMware はお客様のご要望に対する VMware の対応を改善する目的で、現在ご使用の配置に関する匿名データを収集します。企業が特定できるような情報は収集されません。View Client の情報はまず View 接続サーバへ送られ、次いで、Horizon View サーバ、デスクトップ プール、および View デスクトップの情報とともに VMware へ送られます。

VMware カスタマー エクスペリエンス向上プログラムに参加するには、View 接続サーバをインストールする管理者が View 接続サーバインストールウィザードを実行しているときに選択するか、インストール後に View Administrator でオプションを設定します。

表 1-1. カスタマー エクスペリエンス向上プログラムに関して View Client で収集されるデータ

説明	このフィールドは匿名 になりますか？	値の例
View Client アプリケーションのメーカー	×	★前のセグメントに誤を入れました☆
製品名	×	VMware Horizon View Client
クライアント製品のバージョン	×	この形式は <x.x.x-yyyyyy> です (<x.x.x> はクライアントのバージョン番号、<yyyyyy> はビルド番号)。
クライアントのバイナリアーキテクチャ	×	以下に例を挙げます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ i386 ■ x86_64 ■ arm

表 1-1. カスタマー エクスペリエンス向上プログラムに関して View Client で収集されるデータ (続き)

説明	このフィールドは匿名 になりますか？	値の例
クライアントのビルド名	×	以下に例を挙げます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ VMware-wswc-viewclient-x86_64 ■ VMware-Horizon-View-Client-Linux ■ VMware-Horizon-View-Client-iOS ■ VMware-Horizon-View-Client-Mac ■ VMware-Horizon-View-Client-Android
ホスト OS	×	以下に例を挙げます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Windows 7、64 ビット Service Pack 1 (Build 7601) ■ iPhone OS 5.1.1 (9B206) ■ Ubuntu 10.04.4 LTS ■ Mac OS X 10.7.5 (11G63)
ホスト OS のカーネル	×	以下に例を挙げます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Windows 6.1.7601 SP1 ■ Darwin Kernel バージョン 11.0.0:Sun Apr 8 21:52:26 PDT 2012;root:xnu-1878.11.10~1/RELEASE_ARM_S5L8945X ■ Darwin 11.4.2 ■ Linux 2.6.32-44-generic #98-Ubuntu SMP Mon Sep 24 17:27:10 UTC 2012 ■ 不明 (Windows ストア版)
ホスト OS のアーキテクチャ	×	以下に例を挙げます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ x86_64 ■ i386 ■ armv7l ■ ARM
ホスト システムのモデル	×	以下に例を挙げます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Dell Inc. OptiPlex 960 ■ iPad3,3 ■ MacBookPro8,2 ■ Dell Inc. Precision WorkStation T3400 (A04 03/21/2008)
ホスト システムの CPU	×	以下に例を挙げます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Intel(R) Core(TM)2 Duo CPU E8400 @ 3.00GH ■ Intel(R) Core(TM)2 Quad CPU Q6600 @ 2.40GH ■ 不明 (iPad)
ホスト システムのプロセッサのコア数	×	例： 4
ホスト システムのメモリ容量 (MB)	×	以下に例を挙げます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 4096 ■ 不明 (Windows ストア版)

Windows 版 View Client のインストール

Windows ベースの View Client のインストーラは、VMware の Web サイトまたは View Portal から入手できます。View Portal は、View 接続サーバによって提供される Web アクセス ページです。View Client をインストールした後、エンド ユーザー用にさまざまな起動オプションを設定できます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [Windows 版 View Client のインストール \(P. 15\)](#)
- [View Portal を使用して View Client をインストールする \(P. 17\)](#)
- [View Portal で表示される View Client のダウンロード リンクを構成 \(P. 18\)](#)
- [View Client のサイレント インストール \(P. 19\)](#)

Windows 版 View Client のインストール

エンド ユーザーは、View Client を開いてクライアントシステムから仮想デスクトップに接続します。Windows ベースのインストーラ ファイルを実行して、View Client のすべてのコンポーネントをインストールできます。

View Client with Local Mode を使用すると、エンド ユーザーは仮想デスクトップのコピーをローカル コンピュータにダウンロードできます。その後、エンド ユーザーはネットワークに接続できない場合でも仮想デスクトップを使用できます。レイテンシーは最小になり、パフォーマンスは向上します。

View Client with Local Mode は、以前のリリースで View Client with Offline Desktop と呼ばれていた試験的な機能を完全にサポートしたものです。

この手順では、対話型のインストール ウィザードを使用した View Client のインストールについて説明します。コマンドラインの Microsoft Windows Installer (MSI) のサイレント インストール機能を使用する場合は、[\[View Client をサイレント インストールする \(P. 20\)\]](#) を参照してください。

開始する前に

- クライアントシステムがサポートされているオペレーティングシステムを使用していることを確認します。[\[Windows クライアントのシステム要件 \(P. 7\)\]](#) を参照してください。
- クライアントシステムに管理者としてログインできることを確認します。
- View Agent がインストールされていないことを確認します。
- ローカル モードの前提条件：
 - ライセンスに View Client with Local Mode が含まれていることを確認します。
 - 次のどの製品もインストールされていないことを確認します。VMware Horizon View Client、VMware Player、VMware Workstation、VMware ACE、VMware サーバ。

- USB リダイレクトの前提条件：
 - クライアント デバイスを使用するユーザーが仮想デスクトップからローカルに接続された USB デバイスにアクセスできるようにするかどうかを決定します。アクセスできないようにする場合は、ウィザードで [USB リダイレクト] コンポーネントの選択をオフにするか、コンポーネントをインストールしてから GPO を使用して無効にします。

[USB リダイレクト] コンポーネントを常にインストールし、GPO を使用して USB アクセスを制御することを推奨します。この方法では、クライアントの USB リダイレクトを後で有効にすることになった場合にも、View Client を再インストールする必要はありません。詳細については、『VMware Horizon View 管理者ガイド』の構成ポリシーについての章の「View Client 構成 ADM テンプレート設定」を参照してください。
 - [USB リダイレクト] コンポーネントをインストールする場合は、クライアント コンピュータで Windows の自動更新機能が無効になっていないことを確認します。
- エンド ユーザーが現在ログインしているユーザーとして View Client および仮想デスクトップにログインできる機能を使用するかどうかを決定します。ユーザーがクライアント システムにログインするときに入力した認証情報が、View 接続サーバインスタンスに、そして最終的には仮想デスクトップに渡されます。一部のクライアント OS はこの機能をサポートしていません。
- View 接続サーバインスタンスの完全修飾ドメイン名 (FQDN) をエンド ユーザーが入力する必要がないようにする場合は、インストールの間に指定できるように FQDN を決定します。

手順

- 1 管理者権限を持つユーザーとしてクライアント システムにログインします。
- 2 クライアント システムでは、<http://www.vmware.com/go/viewclients> の Horizon View Client ダウンロード ページから View Client インストーラ ファイルをダウンロードします。

適切なインストーラ ファイルを選択します。<xxxxxx> はビルド番号、<y.y.y> はバージョン番号です。

オプション	操作
View Client を 64 ビット OS に	VMware-viewclient-x86_64-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe を選択 (View Client の場合) VMware-viewclientwithlocalmode-x86_64-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe を選択 (View Client with Local Mode の場合)
View Client を 32 ビット OS に	VMware-viewclient-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe を選択 (View Client の場合) VMware-viewclientwithlocalmode-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe を選択 (View Client with Local Mode の場合)

- 3 View Client のインストール プログラムを開始するには、インストーラ ファイルをダブルクリックします。
- 4 プロンプトに従って、必要なコンポーネントをインストールします。

VMware View Client サービスが Windows クライアント コンピュータにインストールされます。

View Client のサービス名は **wsmn** です。USB コンポーネントのサービス名は、VMware USB Arbitration Service (**VMUSBArbService**) および VMware View USB (**vmware-view-usbd**) です。

次に進む前に

View Client を起動し、正しい仮想デスクトップにログインできることを確認します。[\[View デスクトップへのログイン \(P. 35\)\]](#) を参照してください。

View Portal を使用して View Client をインストールする

View Client または View Client with Local Mode アプリケーションをダウンロードおよびインストールするときは、ブラウザを開いて View Portal Web ページを参照するのが便利な方法です。View Portal を使用して、Windows および Mac クライアント コンピュータ用の View Client フル インストーラをダウンロードできます。

View Client をダウンロードするために VMware ダウンロード ページをブラウズする代わりに、View 接続サーバの URL をブラウズできます。この設定を構成して、VMware ダウンロード ページとは異なる場所に View Portal のリンクをポイントすることもできます。

開始する前に

- View Portal のリンクが VMware ダウンロード ページと異なる場所をポイントする必要がある場合、[「View Portal で表示される View Client のダウンロード リンクを構成 \(P. 18\)」](#) を参照してください。
- View 接続サーバインスタンスの URL がわかっていることを確認します。
- クライアントシステムに管理者としてログインできることを確認します。
- クライアントシステムがサポートされているオペレーティングシステムを使用していることを確認します。[「Windows クライアントのシステム要件 \(P. 7\)」](#) を参照してください。
- View Agent がインストールされていないことを確認します。
- ローカル モードの前提条件：
 - ライセンスに View Client with Local Mode が含まれていることを確認します。
 - 次のどの製品もインストールされていないことを確認します。VMware Horizon View Client、VMware Player、VMware Workstation、VMware ACE、VMware サーバ。
- USB リダイレクトの前提条件：
 - クライアント デバイスを使用するユーザーが仮想デスクトップからローカルに接続された USB デバイスにアクセスできるようにするかどうかを決定します。アクセスできないようにする場合は、ウィザードで [USB リダイレクト] コンポーネントの選択をオフにするか、コンポーネントをインストールしてから GPO を使用して無効にします。

[USB リダイレクト] コンポーネントを常にインストールし、GPO を使用して USB アクセスを制御することを推奨します。この方法では、クライアントの USB リダイレクトを後で有効にすることになった場合にも、View Client を再インストールする必要はありません。詳細については、『VMware Horizon View 管理者ガイド』の構成ポリシーについての章の「View Client 構成 ADM テンプレート設定」を参照してください。
 - [USB リダイレクト] コンポーネントをインストールする場合は、クライアント コンピュータで Windows の自動更新機能が無効になっていないことを確認します。

手順

- 1 管理者権限を持つユーザーとしてクライアントシステムにログインします。
- 2 ブラウザを開き、仮想デスクトップへのアクセスを提供する View 接続サーバインスタンスの URL を入力します。
URL では、**http** ではなく **https** を必ず使用します。
- 3 ご使用のオペレーティングシステムのタイプ (32 ビットまたは 64 ビット) およびインストールする View Client のタイプ (Local Mode の有る無し) の適切なリンクをクリックします。
- 4 求められたら、ファイルをクライアントシステムに保存します。
- 5 View Client のインストール プログラムを開始するには、インストーラ ファイルをダブルクリックします。
- 6 プロンプトに従って、必要なコンポーネントをインストールします。

次に進む前に

View デスクトップに接続します。[「View デスクトップへのログイン \(P. 35\)」](#)。

View Portal で表示される View Client のダウンロード リンクを構成

デフォルトでは、ブラウザを開いて View 接続サーバインスタンスの URL を入力すると、VMware へのリンクが付けられている View Portal ページが表示されます。View Client をダウンロードするためのダウンロードサイトです。このデフォルトは変更できます。

View Portal のデフォルトの View Client リンクは、最新の互換性のある View Client インストーラにダイレクトされることを保証します。ただし、場合によっては、内部 Web サーバをポイントするリンクや、特定のクライアントバージョンを View 接続サーバで使用できるようにしたい場合があります。異なる URL をポイントするためにページを再構成できます。

重要 本トピックで説明したように View Portal リンクをカスタマイズし、後でサーバに VMware Horizon View HTML Access をインストールすると、カスタマイズした View Portal ページは、HTML Access ページと置き換わります。

開始する前に

- ご使用の環境に適する View Client のタイプのインストーラ ファイルをダウンロードします。View Client のダウンロード ページの URL は <https://www.vmware.com/go/viewclients> です。
- どの HTTP サーバがインストーラ ファイルをホストするかを決定します。View 接続サーバインスタンスまたは他の HTTP サーバにファイルを置くことができます。

手順

- 1 インストーラ ファイルが置かれている HTTP サーバにインストーラ ファイル用のフォルダを作成します。
たとえば、デフォルトインストールディレクトリで View 接続サーバホストの **downloads** フォルダにファイルを配置するには、以下のパスを使用します。
C:\Program Files\VMware\VMware View\Server\broker\webapps\downloads
ファイルへのリンクは、以下のフォーマットの URL を使用します。 **https://<server-name>/downloads/<client-installer-file-name>**。たとえば、**view.mycompany.com** という名前のサーバは、Windows 版 View Client で以下の URL を使用します。
https://view.mycompany.com/downloads/VMware-viewclient.exe。この例では、**downloads** という名前のフォルダは、ルートフォルダの **webapps** に置かれます。
- 2 View Client インストーラ ファイルをこのフォルダにコピーします。
フォルダが View 接続サーバに置かれている場合、VMware View 接続サーバサービスを再起動することなく、このフォルダのファイルを置き換えることができます。
- 3 View 接続サーバマシンでは、<install-path>\Server\Extras\PortalExamples に置かれている **portal-links.properties** ファイルおよび **portal.properties** ファイルをコピーします。
- 4 **portal** フォルダを **C:\ProgramData\VMware\VDM** ディレクトリに作成し、**portal-links.properties** および **portal.properties** ファイルを **portal** フォルダにコピーします。

- 5 `C:\ProgramData\VMware\VDM\portal\portal-links.properties` ファイルを編集して、インストーラファイルの新しい場所をポイントします。

このファイルの行を編集して、さらにリンクを作成する必要がある場合はリンクを追加できます。行を削除することもできます。

以下の例は、Windows 版 View Client に 2 つのリンク、そして Linux 版 View Client に 2 つのリンクを作成するためのプロパティを示しています。

```
link.win=https://<server-name>/downloads/VMware-viewclient-x86_64-<y.y.y-XXXX>.exe#win
link.win.1=https://<server-name>/downloads/VMware-viewclient-<y.y.y-XXXX>.exe#win
link.linux=https://<server-name>/downloads/VMware-viewclient-x86_64-<y.y.y-XXXX>.rpm#linux
link.linux.1=https://<server-name>/downloads/VMware-viewclient-<y.y.y-XXXX>.tar.gz#linux
```

この例では、`<y.y.y-XXXX>` はバージョンとビルド番号を示します。行の最後の `win` テキストは、クライアントが Windows オペレーティングシステムを持つ場合にこのリンクがブラウザに表示される必要があることを示します。Windows には `win`、Linux には `linux`、そして Mac OS X には `mac` を使用します。

- 6 `C:\ProgramData\VMware\VDM\portal\portal.properties` ファイルを編集して、リンクで表示するテキストを指定します。

これらの行は、`# keys based on key names in portal-links.properties` キーと呼ばれるファイルのセクションに表示されます。

以下の例は、`link.win` および `link.win.1` に指定されたリンクに対応するテキストを示します。

```
text.win=View Client for Windows 32 bit Client users
text.win.1=View Client for Windows 64 bit Client users
```

- 7 VMware View 接続サーバサービスを再起動します。

View 接続サーバの URL をエンドユーザーが入力すると、指定したテキストでリンクが表示されます。リンクは指定した場所をポイントします。

View Client のサイレント インストール

コマンドラインでインストーラのファイル名とインストール オプションを入力することにより、View Client のサイレント インストールを実行できます。サイレント インストールを使うと、大規模なエンタープライズに View のコンポーネントを効率よく展開できます。

View Client with Local Mode のサイレント インストールを許可するグループ ポリシーを設定する

View Client with Local Mode のサイレント インストールを行うには、昇格された権限でのインストールを許可するように Microsoft Windows のグループ ポリシーを構成する必要があります。

View Client のサイレント インストールには、これらのグループ ポリシーを設定する必要はありません。これらのポリシーは、View Client with Local Mode の場合にのみ必要です。

コンピュータと、クライアント コンピュータのユーザーに対し、Windows インストーラのグループ ポリシーを設定する必要があります。

開始する前に

View Client with Local Mode をインストールする Windows クライアント コンピュータに対して管理者権限があることを確認します。

手順

- 1 クライアント コンピュータにログインして、[Start (スタート)]-[Run (ファイル名を指定して実行)] をクリックします。
- 2 「gpedit.msc」と入力し、[OK] をクリックします。
- 3 グループ ポリシー オブジェクト エディタで [Local Computer Policy (ローカル コンピュータ ポリシー)]-[Computer Configuration (コンピュータの構成)] をクリックします。
- 4 [Administrative Templates (管理テンプレート)]、次に [Windows Components (Windows コンポーネント)] を展開し、[Windows Installer (Windows インストーラ)] フォルダを開き、[Always install with elevated privileges (常にシステム特権でインストールする)] をダブルクリックします。
- 5 [Always Install with Elevated Privileges Properties (常にシステム特権でインストールのプロパティ)] ウィンドウで、[Enabled (有効)] をクリックし、[OK] をクリックします。
- 6 左側のペインで、[User Configuration (ユーザーの構成)] をクリックします。
- 7 [Administrative Templates (管理テンプレート)]、次に [Windows Components (Windows コンポーネント)] を展開し、[Windows Installer (Windows インストーラ)] フォルダを開き、[Always install with elevated privileges (常にシステム特権でインストールする)] をダブルクリックします。
- 8 [Always Install with Elevated Privileges Properties (常にシステム特権でインストールのプロパティ)] ウィンドウで、[Enabled (有効)] をクリックし、[OK] をクリックします。

次に進む前に

View Client with Local Mode をサイレントでインストールします。

View Client をサイレント インストールする

Microsoft Windows インストーラ (MSI) のサイレントインストール機能を使用して、複数の Windows コンピュータに View Client をインストールできます。サイレントインストールではコマンドラインを使用するので、ウィザードのプロンプトに応答する必要はありません。

開始する前に

- クライアントシステムがサポートされているオペレーティングシステムを使用していることを確認します。[\[Windows クライアントのシステム要件 \(P.7\)\]](#) を参照してください。
- クライアントシステムに管理者としてログインできることを確認します。
- View Agent がインストールされていないことを確認します。
- ローカル モードの前提条件：
 - サイレントインストールに必要な Windows インストーラのグループポリシーがクライアントコンピュータで構成されていることを確認します。[\[View Client with Local Mode のサイレントインストールを許可するグループポリシーを設定する \(P.19\)\]](#) を参照してください。
 - ライセンスに View Client with Local Mode が含まれていることを確認します。
 - 次のどの製品もインストールされていないことを確認します。VMware Horizon View Client、VMware Player、VMware Workstation、VMware ACE、VMware サーバ。
- エンドユーザーが現在ログインしているユーザーとして View Client および仮想デスクトップにログインできる機能を使用するかどうかを決定します。ユーザーがクライアントシステムにログインするときに入力した認証情報が、View 接続サーバインスタンスに、そして最終的には仮想デスクトップに渡されます。一部のクライアント OS はこの機能をサポートしていません。
- MSI インストーラのコマンドライン オプションを理解します。[\[Microsoft Windows インストーラ コマンドライン オプション \(P.23\)\]](#) を参照してください。

- View Client で使用できるサイレント インストール (MSI) のプロパティについて理解します。[\[View Client のサイレント インストール プロパティ \(P. 21\)\]](#) を参照してください。
- エンド ユーザーが仮想デスクトップからローカルに接続された USB デバイスにアクセスできるようにするかどうかを決定します。許可しない場合は、MSI のプロパティ `ADDLOCAL` に許可する機能のリストを設定し、USB 機能は除外します。詳細については、[\[View Client のサイレント インストール プロパティ \(P. 21\)\]](#) を参照してください。
- View 接続サーバインスタンスの完全修飾ドメイン名 (FQDN) をエンド ユーザーが入力する必要があるようにする場合は、インストールの間に指定できるように FQDN を決定します。

手順

- 1 クライアントシステムでは、<http://www.vmware.com/go/viewclients> の VMware 製品ページから View Client インストーラ ファイルをダウンロードします。

適切なインストーラ ファイルを選択します。<xxxxxx> はビルド番号、<y.y.y> はバージョン番号です。

オプション	操作
View Client を 64 ビット OS に	VMware-viewclient-x86_64-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe を選択 (View Client の場合) VMware-viewclientwithlocalmode-x86_64-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe を選択 (View Client with Local Mode の場合)
View Client を 32 ビット OS に	VMware-viewclient-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe を選択 (View Client の場合) VMware-viewclientwithlocalmode-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe を選択 (View Client with Local Mode の場合)

- 2 Windows クライアント コンピュータでコマンド プロンプトを開きます。

- 3 インストール コマンドを 1 行で入力します。

この例では、シングル サインオン機能と USB リダイレクト機能を指定して View Client をインストールします。デフォルトの View 接続サーバインスタンスが View Client ユーザー用に構成されます。VMware-viewclient-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe /s /v"/qn REBOOT=ReallySuppress
VDM_SERVER=cs1.companydomain.com ADDLOCAL=Core,TSSO,USB"

この例では View Client with Local Mode をインストールします。VMware-viewclientwithlocal-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe /s /v"/qn ADDLOCAL=Core,MVDI"

注意 Core 機能は必須です。

VMware View Client サービスが Windows クライアント コンピュータにインストールされます。

次に進む前に

View Client を起動し、正しい仮想デスクトップにログインできることを確認します。[\[View デスクトップへのログイン \(P. 35\)\]](#) を参照してください。

View Client のサイレント インストール プロパティ

コマンドラインから View Client をサイレントでインストールする場合に特定のプロパティを含めることができます。<PROPERTY>=<value> フォーマットを使用する必要があり、Microsoft Windows Installer (MSI) はプロパティと値を解釈できます。

表 2-1 は、コマンドラインで使用できる View Client サイレント インストール プロパティを示しています。

表 2-1. View Client をサイレント インストールするための MSI プロパティ

MSI プロパティ	説明	デフォルト値
INSTALLDIR	View Client ソフトウェアがインストールされるパスおよびフォルダ。 例: <code>INSTALLDIR=""D:\abc\my folder""</code> パスを囲む二重引用符によって MSI インストーラにパスの有効部分としてスペースを解釈することを許可します。 この MSI プロパティはオプションです。	%ProgramFiles%\VMware\VMware Horizon View Client
DESKTOP_SHORTCUT	View Client のデスクトップショートカットアイコンを構成します。 1 の値は、ショートカットをインストールします。0 の値は、ショートカットをインストールしません。 この MSI プロパティはオプションです。	1
QUICKLAUNCH_SHORTCUT	View Client のクイック起動トレイにショートカット アイコンを構成します。 1 の値は、ショートカットをインストールします。0 の値は、ショートカットをインストールしません。 この MSI プロパティはオプションです。	1
STARTMENU_SHORTCUT	スタートメニューに View Client のショートカットを構成します。 1 の値は、ショートカットをインストールします。0 の値は、ショートカットをインストールしません。 この MSI プロパティはオプションです。	1

サイレント インストール コマンドでは、MSI プロパティ **ADDLOCAL=** を使用して、View Client インストーラが構成する機能を指定できます。各サイレント インストール機能は、対話的なインストール中にユーザーが選択できるセットアップ オプションに対応します。

表 2-2 は、コマンドラインでユーザーが入力できる View Client 機能と対応する対話的なインストール オプションを示します。

表 2-2. View Client のサイレント インストールと対話的なカスタム セットアップ オプション

サイレント インストール機能	対話的なインストールのカスタム セットアップ オプション
Core MSI プロパティ ADDLOCAL= で個別機能を指定する場合、 Core を含める必要があります。 ADDLOCAL=ALL を指定すれば、Core を含むすべての View Client および Local Mode 機能のある View Client がインストールされます。	なし。 対話的なインストール中にコアとなる View Client 機能がデフォルトでインストールされます。
MVDI Local Mode で View Client をインストールして ADDLOCAL= で個別の機能を指定する時にこの機能を使用します。 ADDLOCAL=ALL を指定すれば、MVDI を含む Local Mode 機能のあるすべての View Client がインストールされます。	なし。 Local Mode で View Client を対話的にインストールする場合、MVDI 機能がデフォルトでインストールされます。 View Client を対話的にインストールする場合、MVDI 機能は使用できません。
ThinPrint	仮想印刷
TSSO	シングル サインオン (SSO)
USB	USB リダイレクト

Microsoft Windows インストーラ コマンド ライン オプション

View コンポーネントをサイレントにインストールするには、Microsoft Windows Installer (MSI) コマンド ライン オプションおよびプロパティを使用する必要があります。View コンポーネント インストーラは MSI プログラムで、標準 MSI 機能を使用します。MSI コマンド ライン オプションを使用して View コンポーネントをサイレントでアンインストールすることもできます。

MSI の詳細については、Microsoft の Web サイトを参照してください。MSI コマンド ライン オプションについては、Microsoft Developer Network (MSDN) ライブラリの Web サイトを参照して、MSI コマンド ライン オプションを検索してください。MSI コマンド ラインの使用法を確認するには、View コンポーネント コンピュータでコマンド プロンプトを開いて `msiexec /?` と入力できます。

View コンポーネント インストーラをサイレントで実行するには、インストーラを一時ディレクトリに展開するブートストラッププログラムの消音から始め、対話的なインストールを開始します。

表 2-3 は、インストーラのブートストラップ プログラムを制御するコマンド ライン オプションを示します。

表 2-3. View コンポーネントのブートストラップ プログラムのコマンド ライン オプション

オプション	説明
<code>/s</code>	ブートストラップのスプラッシュ画面と抽出ダイアログを無効にします。これによって、対話的なダイアログは表示されません。 例: <code>VMware-viewconnectionserver-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe /s</code> <code>/s</code> オプションがサイレント インストールを実行するために必要です。これらの例の <code><xxxxxx></code> はビルド番号、 <code><y.y.y></code> はバージョン番号です。
<code>/v" <MSI_command_line_options>"</code>	コマンド ラインで入力する二重引用符で囲んだ文字列を MSI のオプションのセットとして解釈するようにインストーラに指示します。二重引用符でコマンド ライン入力を囲む必要があります。 <code>/v</code> の後とコマンド ラインの最後に二重引用符を配置します。 例: <code>VMware-viewagent-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe /s /v"<command_line_options>"</code> MSI インストーラにスペースを含む文字列を解釈するように指示するには、2 セットの二重引用符で文字列を囲みます。たとえば、スペースを含むインストール パス名に View コンポーネントをインストールしたい場合があります。 例: <code>VMware-viewconnectionserver-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe /s /v"<command_line_options> INSTALLDIR=""d:\abc\my folder"""</code> この例では、MSI インストーラはインストール ディレクトリ パスを渡し、2 つのコマンド ライン オプションとして文字列を解釈しようとしません。コマンド ライン全体を囲む最後の二重引用符に注意してください。 <code>/v"<command_line_options>"</code> オプションがサイレント インストールを実行するために必要です。

コマンド ライン オプションおよび MSI プロパティ値を MSI インストーラ `msiexec.exe` に渡すことによってサイレントインストールの残りを制御します。MSI インストーラには View コンポーネントのインストール コードが含まれます。インストーラはコマンド ラインに入力する値およびオプションを使用して、View コンポーネントに固有のインストール 選択肢およびセットアップ オプションを解釈します。

表 2-4 は、MSI インストーラに渡されるコマンド ライン オプションと MSI プロパティ値を示します。

表 2-4. MSI コマンドライン オプションおよび MSI プロパティ

MSI オプションまたはプロパティ	説明
/qn	<p>MSI インストーラにインストーラ ウィザード ページを表示しないように指示します。</p> <p>たとえば、View Agent をサイレントでインストールして、デフォルトのセットアップ オプションと機能だけを使用したい場合があります。</p> <p>VMware-viewagent-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe /s /v"/qn"</p> <p>これらの例の <xxxxxx> はビルド番号、<y.y.y> はバージョン番号です。</p> <p>その代わりに、/qb オプションを使用して、非対話的にウィザード ページを表示する自動インストールができます。インストールが進むとウィザード ページが表示されますが、それらに回答はできません。</p> <p>/qn または /qb オプションがサイレント インストールを実行するために必要です。</p>
INSTALLDIR	<p>View コンポーネントの代わりにインストール パスを指定します。</p> <p><INSTALLDIR>=<path> というフォーマットを使用してインストールパスを指定します。デフォルト パスに View コンポーネントをインストールする場合は、この MSI プロパティを無視できます。この MSI プロパティはオプションです。</p>
ADDLOCAL	<p>インストールするコンポーネント固有の機能を決定します。対話的なインストールでは、View インストーラは選択するカスタム セットアップ オプションを表示します。MSI プロパティの ADDLOCAL によって、コマンドラインでこれらのセットアップ オプションを指定できます。</p> <p>すべての使用可能なカスタム セットアップ オプションをインストールするには、ADDLOCAL=ALL を入力します。</p> <p>例: VMware-viewagent-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe /s /v"/qn ADDLOCAL=ALL"</p> <p>MSI プロパティの ADDLOCAL を使用しなければ、デフォルトのセットアップ オプションがインストールされます。</p> <p>個々のセットアップ オプションを指定するには、セットアップ オプション名のコンマで区切られたリストを入力します。名前間にスペースを使用しないでください。</p> <p><ADDLOCAL>=<value,value,value...> というフォーマットを使用してください。</p> <p>たとえば、View Composer Agent および PCoIP 機能と共に View Agent をゲスト OS にインストールしたい場合があります:</p> <p>VMware-viewagent-<y.y.y>-<xxxxxx>.exe /s /v"/qn ADDLOCAL=Core,SVIAgent,PCoIP"</p> <p>注意 Core 機能が View Agent で必要です。</p> <p>この MSI プロパティはオプションです。</p>
REBOOT	<p>REBOOT=ReallySuppress オプションを使用して、システム構成作業をシステムが再起動する前に完了することができます。</p> <p>この MSI プロパティはオプションです。</p>
/l*v <log_file>	<p>ログ情報を詳細出力で指定したログ ファイルに書き込みます。</p> <p>例: /l*v ""%TEMP%\vmmsi.log"</p> <p>この例は、対話的なインストール中に生成されたログに類似する詳細なログ ファイルを生成します。このオプションを使用して、インストールで一意的に適用するカスタム機能を記録できます。記録された情報を使用して、将来のサイレント インストールでインストール機能を指定できます。</p> <p>/l*v オプションはオプションです。</p>

エンドユーザー用に View Client を構成

View Client は、エンドユーザー用にログインおよびデスクトップ選択エクスペリエンスを簡素化するために複数の設定メカニズムを提供していますが、セキュリティ ポリシも強制します。

この章では次のトピックについて説明します。

- [URI を使用して View Client を構成 \(P. 25\)](#)
- [エンドユーザーの証明書確認の構成 \(P. 29\)](#)

URI を使用して View Client を構成

uniform resource identifiers (URI) を使用して、View Client を起動するためにエンドユーザーがクリックするリンク付きの Web ページまたは電子メールを作成し、View 接続サーバに接続し、特定の設定オプションで固有のデスクトップを起動できます。

エンドユーザー用の Web または電子メールのリンクを作成することで、View デスクトップへのログイン プロセスを簡素化できます。部分的または以下のすべての情報を提供する URI を作成することでこれらのリンクを作成すれば、エンドユーザーは入力する必要がありません。

- View 接続サーバのアドレス
- View 接続サーバのポート番号
- Active Directory ユーザー名
- Active Directory ユーザー名と異なる場合、RADIUS または RSA SecurID ユーザー名
- ドメイン名
- デスクトップ表示名
- ウィンドウ サイズ
- リセット、ログオフ、およびロールバックを含むデスクトップアクション
- 表示プロトコル
- USB デバイスをリダイレクトするオプション

重要 この機能を使用するには、View Client 5.1 以降が必要です。

URI を作成するには、View Client 固有のパスおよびクエリ部分と共に **vmware-view** URI スキーマを使用します。

注意 View Client が既にエンドユーザーのクライアント コンピュータにインストールされている場合に限って、URI を使用して View Client を起動できます。

vmware-view URI を作成するための構文

構文には、**vmware-view** URI スキーム、デスクトップを指定するためのパス部分、そしてオプションでデスクトップのアクションまたは構成オプションを指定するためのクエリが含まれます。

VMware View URI の仕様

以下の構文を使用して View Client を起動するための URI を作成します:

vmware-view://[<authority-part>][/<path-part>][?<query-part>]

必要となる唯一の要素は URI スキーム **vmware-view** です。一部のクライアント OS のバージョンによっては、スキーマ名は大文字と小文字の区別があります。したがって、**vmware-view** を使用してください。

重要 すべての部分で、非 ASCII 文字は UTF-8 [STD63] に基づいて最初にエンコードされる必要があり、次に対応する UTF-8 シーケンスの各オクテットは、URI 文字として表されるパーセントでエンコードされる必要があります。

ASCII 文字のエンコードについての詳細は、http://www.w3schools.com/tags/ref_urlencode.asp の URL エンコーディング資料を参照してください。

<authority-part>

サーバアドレス、オプションでユーザー名、非デフォルト ポート番号、またはその両方を指定します。サーバ名は、DNS 構文に一致する必要があります。

ユーザー名を指定するには、以下の構文を使用します:

user1@<server-address>

ドメインが含まれる UPN アドレスを指定できません。ドメインを指定するには、URI で **domainName** クエリ部分を使用できます。

ポート番号を指定するには、以下の構文を使用します:

<server-address>:<port-number>

<path-part>

デスクトップを指定します。デスクトップ表示名を使用します。表示名にスペースが含まれている場合、**%20** エンコーディング機能を使用してスペースを表します。

<query-part>

使用するための設定オプション、または実行するデスクトップアクションを指定します。クエリは大文字と小文字の区別がありません。複数のクエリを使用するには、クエリの間にアンパサンド (&) を使用します。クエリが違いに競合する場合、リストの最後のクエリが使用されます。次の構文を使用します:

<query1>=<value1>[&<query2>=<value2>...]

サポートされるクエリ

このトピックは、View Client のこのタイプでサポートされるクエリをリストします。デスクトップクライアントやモバイルクライアントなどの複数のクライアントタイプ用に URI を作成する場合は、クライアントシステムの各タイプの『VMware Horizon View Client の使用』を参照してください。

操作

表 3-1. アクション クエリで使用できる値

値	説明
参照	指定したサーバにホストされている使用可能なデスクトップのリストを表示します。このアクションを使用している場合、デスクトップを指定する必要はありません。
スタート セッション	指定したデスクトップを起動します。アクションクエリが提供されず、デスクトップ名が提供されなければ、 スタート セッション がデフォルトアクションとなります。

表 3-1. アクション クエリで使用できる値 (続き)

値	説明
リセット	指定したデスクトップをシャットダウンして再起動します。保存されていないデータは失われます。View デスクトップのリセットは、物理 PC のリセット ボタンを押すのと同じです。
ログオフ	View デスクトップのゲスト OS からユーザーがログオフします。
ロールバック	Windows PC またはノートパソコンのローカル モードを使用するためにチェックアウト中に、指定したデスクトップに行った変更を取り消します。

connectUSBOnInsert	USB デバイスを物理的に接続したときに、そのデバイスをフォアグラウンド デスクトップに接続します。このクエリは、 unattended クエリを指定している場合に暗黙的に設定されます。このクエリを使用するには、 action クエリを start-session に設定する必要があります。さもないと、 action クエリを持ちません。有効な値は、 yes および no です。構文の例は、 connectUSBOnInsert=yes です。
connectUSBOnStartup	すべての USB デバイスをクライアント システムに現在接続されているデスクトップにリダイレクトします。このクエリは、 unattended クエリを指定している場合に暗黙的に設定されます。このクエリを使用するには、 action クエリを start-session に設定する必要があります。さもないと、 action クエリを持ちません。有効な値は、 yes および no です。構文の例は、 connectUSBOnStartup=yes です。
desktopLayout	View デスクトップを表示するウィンドウのサイズを設定します。このクエリを使用するには、 action クエリを start-session に設定する必要があります。さもないと、 action クエリを持ちません。

表 3-2. desktopLayout クエリの有効値

値	説明
fullscreen	1 台のモニターでフル画面。これはデフォルトです。
multimonitor	すべてのモニターでフル画面。
windowLarge	大きなウィンドウ。
windowSmall	小さなウィンドウ。
<W>x<H>	カスタム解像度で、幅と高さをピクセルで指定します。構文の例は、 desktopLayout=1280x800 です。

desktopProtocol	有効な値は、 RDP および PCoIP です。たとえば、PCoIP を指定するには、 desktopProtocol=PCoIP 構文を使用します。
domainName	View デスクトップに接続しているユーザーに関連づけられるドメイン。
tokenUserName	RSA または RADIUS ユーザー名を指定します。RSA または RADIUS ユーザー名が Active Directory ユーザー名と異なる場合に限りこのクエリを使用します。このクエリを指定せず、RSA または RADIUS 認証が必要である場合、Windows ユーザー名が使用されます。この構文は、 tokenUserName=<name> です。
unattended	サーバ接続をキオスク モードで作成します。このクエリを使用する場合、ユーザー情報を指定しないでください。

vmware-view URI の例

vmware-view URI スキームでハイパーテキストリンクまたはボタンを作成し、これらのリンクを電子メールまたは Web ページに含めることができます。エンドユーザーはこれらのリンクをクリックして、たとえば、指定した起動オプションで特定の View デスクトップを起動できます。

URI 構文の例

各 URI の例に続いて、URI リンクをクリック後にエンドユーザーに表示される事柄について説明します。

1 **vmware-view://view.mycompany.com/Primary%20Desktop?action=start-session**

View Client が起動され、**view.mycompany.com** サーバに接続します。ログイン ボックスが表示され、ユーザー名、ドメイン名、およびパスワードをユーザーに求めます。ログインに成功すると、クライアントはディスプレイ名が [Primary Desktop (プライマリ デスクトップ)] として表示されるデスクトップに接続し、ユーザーはゲスト OS にログインされます。

注意 デフォルトの表示プロトコルおよびウィンドウ サイズが使用されます。デフォルトの表示プロトコルは PCoIP です。デフォルトのウィンドウ サイズはフルスクリーンです。

2 **vmware-view://view.mycompany.com:7555/Primary%20Desktop**

この URI は前の例と同じ効果がありますが、View 接続サーバに 7555 の非デフォルト ポートを使用するところが異なります (デフォルトのポートは 443 です)。デスクトップ ID が提供されるので、デスクトップは **start-session** アクションが URI に含まれていない場合であっても起動されます。

3 **vmware-view://fred@view.mycompany.com/Finance%20Desktop?desktopProtocol=PCoIP**

View Client が起動され、**view.mycompany.com** サーバに接続します。ログイン ボックスで、[ユーザー名] テキスト ボックスに [fred] という名前が入力されます。ユーザーはドメイン名とパスワードを入力する必要があります。ログインに成功すると、クライアントはディスプレイ名が [Finance Desktop (ファイナンス デスクトップ)] として表示されるデスクトップに接続し、ユーザーはゲスト OS にログインされます。PCoIP 表示プロトコルを使用して接続します。

4 **vmware-view://fred@view.mycompany.com/Finance%20Desktop?domainName=mycompany**

View Client が起動され、**view.mycompany.com** サーバに接続します。ログイン ボックスで、[ユーザー名] テキスト ボックスに [fred] という名前が入力され、[ドメイン] テキスト ボックスに [mycompany] が入力されます。ユーザーはパスワードを入力する必要があるだけです。ログインに成功すると、クライアントはディスプレイ名が [Finance Desktop (ファイナンス デスクトップ)] として表示されるデスクトップに接続し、ユーザーはゲスト OS にログインされます。

5 **vmware-view://view.mycompany.com/**

View Client が起動され、ユーザーは、**view.mycompany.com** サーバに接続するためにログインを求められます。

6 **vmware-view://view.mycompany.com/Primary%20Desktop?action=reset**

View Client が起動され、**view.mycompany.com** サーバに接続します。ログイン ボックスが表示され、ユーザー名、ドメイン名、およびパスワードをユーザーに求めます。ログインに成功すると View Client はダイアログ ボックスを表示し、プライマリ デスクトップのリセット操作を確認することをユーザーに求めます。View Client のタイプによってはリセットが行われた後、リセットが成功したかどうかを示すメッセージがユーザーに表示される場合があります。

注意 このアクションは、View 管理者がこの機能をエンドユーザーに対して有効にしている場合にのみ可能です。

7 **vmware-view://view.mycompany.com/Primary%20Desktop?action=start-session&connectUSBOnStartup=true**

この URI は最初の例と同じ効果があり、クライアント システムに接続しているすべての USB デバイスは、View デスクトップにリダイレクトされます。

8 vmware-view://

View Client が起動され、View 接続サーバインスタンスのアドレスを入力するためのページにユーザーは導かれません。

HTML コードの例

URI を使用してハイパーリンクおよびボタンを作成し、電子メールまたは Web ページに含めることができます。以下の例は、[Test Link (テストリンク)] というハイパーリンクおよび [TestButton] というボタンのコードを記述するために最初の URI の例から URI を使用する方法を示します。

```
<html>
<body>

<a href="vmware-view://view.mycompany.com/Primary%20Desktop?action=start-session">Text Link</a><br>

<form><input type="button" value="TestButton" onClick="window.location.href='vmware-view://view.mycompany.com/Primary%20Desktop?action=start-session'"></form>
<br>

</body>
</html>
```

エンドユーザーの証明書確認の構成

管理者は、証明書検証モードを構成し、たとえば、完全な検証を常に実行するようにすることができます。

View 接続サーバと View Client の間の SSL 接続について、証明書が確認されます。管理者は、次のいずれかの方法を使用するように検証モードを構成できます。

- エンドユーザーに検証モードの選択を許可します。このリストのこれ以降では、3つの検証モードを説明します。
- (検証なし) 証明書確認は実行されません。
- (警告) 自己署名証明書がサーバによって提示されると、エンドユーザーに警告が通知されます。ユーザーは、このタイプの接続を許可するかどうかを選択できます。
- (フルセキュリティ) フル検証が実行され、フル検証をパスしない接続は拒否されます。

実行される検証確認のタイプの詳細については、[\[View Client の証明書確認モード \(P. 30\)\]](#) を参照してください。

検証モードを設定するには、Client Configuration ADM テンプレートファイルを使用します。View コンポーネント用の ADM テンプレートファイルは、View 接続サーバホストの <インストール ディレクトリ>\VMware\VMware View\Server\Extras\GroupPolicyFiles ディレクトリにインストールされます。これらのテンプレートを使用して GPO 設定を制御する情報については、『VMware Horizon View 管理ガイド』を参照してください。

この設定をグループポリシーとして構成したくないときは、クライアントコンピュータの次のレジストリキーに CertCheckMode 値の名前を追加することでも、証明書検証を有効にすることができます。

- 32ビット Windows : HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\Security
- 64ビット Windows : HKLM\SOFTWARE\Wow6432Node\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\Security

レジストリキーでは次の値を使用します。

- **0** は サーバ ID 証明書を確認しない を実装します。
- **1** は 信用できないサーバに接続する前に警告する を実装します。

- **2 は 信用できないサーバに接続しない** を実装します。

グループ ポリシー設定とレジストリ キーの **CertCheckMode** 設定の両方を構成すると、グループ ポリシー設定の方がレジストリ キーでの設定よりも優先されます。

View Client の証明書確認モード

管理者は、またときにはエンド ユーザーは、サーバの証明書確認が失敗した場合にクライアント接続を拒否するかどうかを設定できます。

証明書確認は、View 接続サーバと View Client 間の SSL 接続に対して実行されます。証明書検査では、次のような検査が行われます。

- 証明書は失効しているか。
- 証明書の目的は、送信側の ID 検証やサーバ通信の暗号化以外にあるか。つまり、証明書のタイプは正しいか。
- 証明書は期限切れになっているか、また有効なのは未来のみか。つまり、証明書はコンピュータの時刻に応じて有効になっているか。
- 証明書上の共通名は、それを送信するサーバのホスト名と一致しているか。ロード バランサが View Client をあるサーバにリダイレクトする際に、証明書が View Client に入力したホスト名と一致しない場合、不一致が発生する可能性があります。クライアントにホスト名ではなく IP アドレスを入力した場合でも、不一致の原因となる可能性があります。
- 不明なまたは信頼されていない証明機関 (CA) によって署名された証明書か。自己署名された証明書は、信頼されていない CA の証明書タイプの 1 つです。

チェックをパスするには、証明書のトラスト チェーンが、デバイスのローカル証明書ストアでルートになっている必要があります。

注意 ドメイン内のすべての Windows クライアントシステムに自己署名付ルート証明書を配布する手順については、[VMware Horizon View インストール] ドキュメントの「信用されるルート証明書を追加」トピックを参照してください。

デスクトップへのログインに View Client を使用していて、管理者の許可を受けている場合には、[[SSL の構成]] をクリックすると証明書確認モードを設定できます。選択肢は次の 3 つです。

- [[信頼が確認されていないサーバには絶対に接続しない]]。証明書の確認に失敗した場合、クライアントはサーバに接続できなくなります。失敗したチェックは、エラー メッセージに一覧表示されます。
- [[信頼されていないサーバに接続する前に警告する]]。サーバが自己署名証明書を使用していることが原因で、証明書の確認に失敗した場合、[[続行]] をクリックして警告を無視することができます。自己署名証明書の場合、証明書名は View Client に入力した View 接続サーバ名と一致する必要はありません。

証明書が期限切れの場合でも、警告を受信します。

- [[サーバ ID 証明書を検証しない]]。この設定は、証明書確認は View によって一切実行されないことを意味します。

証明書確認モードが [[警告]] に設定されている場合でも、自己署名証明書を使用する View 接続サーバインスタンスに接続することができます。

後で管理者が信頼される証明機関からのセキュリティ証明書をインストールし、接続時のすべての証明書確認にパスするようになると、この信頼された接続はその特定のサーバに対して記録されます。その後、このサーバが自己署名証明書を再び提示すると、接続は失敗します。特定のサーバが完全に検証可能な証明書を提示した後は、必ずその処理が行われます。

重要 チェックアウトした View デスクトップをローカルシステム上で使用する場合、企業ネットワークに接続していると、View デスクトップにログインしたタイミングで上記のように証明書確認が実行されます。企業ネットワークに接続していない場合には、証明書確認は実行できません。View デスクトップは、証明書確認が成功したかのように実行されます。

コマンドラインからの View Client の実行

コマンドラインまたはスクリプトから Windows 用 View Client を実行できます。エンドユーザーによるデスクトップアプリケーションへのアクセスを許可する、キオスクベースのアプリケーションを実装している場合にこれらの起動方法を利用できます。

Windows 用 View Client をコマンドラインから実行するには、**wswc** コマンドを使用します。このコマンドにオプションを指定することで View Client の動作を変更できます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [View Client コマンドの使用方法 \(P. 31\)](#)
- [View Client の構成ファイル \(P. 33\)](#)
- [View Client のレジストリ設定 \(P. 34\)](#)

View Client コマンドの使用方法

wswc コマンドの構文によって、View Client の動作が制御されます。

Windows コマンド プロンプトで、次の形式の **wswc** コマンドを使用します。

```
wswc [<command_line_option> [<argument>]] ...
```

デフォルトでは、**wswc** コマンドの実行可能ファイルのパスは **C:\Program Files\VMware\VMware View\Client\bin** です。このパスを <PATH> 環境変数に追加しておく便利です。

表 4-1 に、**wswc** コマンドで使用できるコマンドライン オプションを示します。

表 4-1. View Client コマンドライン オプション

オプション	説明
/?	コマンド オプションの一覧を表示します。
-checkin	(Local Desktop のみ) 指定されたデスクトップをチェックインし、対応するオンラインのデスクトップのロックを解除します。 このオプションを使用する場合、 -desktopName オプションも指定する必要があります。
-checkout	(Local Desktop のみ) 指定されたデスクトップをチェックアウトし、対応するオンラインのデスクトップをロックします。 このオプションを使用する場合、 -desktopName オプションも指定する必要があります。
-confirmRollback	(Local Desktop のみ) -rollback オプションの使用時に表示される確認ダイアログボックスを非表示にします。非対話モードでロールバックを実行するには、 -nonInteractive オプションも指定します。

表 4-1. View Client コマンドライン オプション (続き)

オプション	説明
<code>-connectUSBOnStartup</code>	<code>true</code> に設定している場合、現在ホストに接続しているすべての USB デバイスをデスクトップにリダイレクトします。 <code>-unattended</code> オプションを指定すると、このオプションが暗黙のうちに設定されます。デフォルトは、 <code>false</code> です。
<code>-connectUSBOnInsert</code>	<code>true</code> に設定している場合、USB デバイスを物理的に接続したときに、そのデバイスをフォアグラウンド デスクトップに接続します。 <code>-unattended</code> オプションを指定すると、このオプションが暗黙のうちに設定されます。デフォルトは、 <code>false</code> です。
<code>-desktopLayout <window_size></code>	デスクトップのウィンドウの表示方法を指定します。 fullscreen フル スクリーン表示 multimonitor 複数モニタ表示 windowLarge 大きいウィンドウ windowSmall 小さいウィンドウ
<code>-desktopName <desktop_name></code>	[Select Desktop (デスクトップの選択)] ダイアログ ボックスに表示されるデスクトップの名前を指定します。これは、デスクトップの選択ダイアログで表示される名前です。
<code>-desktopProtocol <protocol></code>	使用するデスクトップ プロトコルとして [Select Desktop (デスクトップの選択)] ダイアログ ボックスに表示されるものを指定します。プロトコルは、PCOIP または RDP です。
<code>-domainName <domain_name></code>	View Client にログインするためにエンド ユーザーが使用するドメインを指定します。
<code>-file <file_path></code>	追加のコマンド オプションおよび引数を記述した構成ファイルのパスを指定します。 [View Client の構成ファイル (P. 33)]
<code>-languageId <Locale_ID></code>	View Client をさまざまな言語で使用するための各国語化サポートを提供します。リソース ライブラリが利用可能な場合は、使用するロケール ID (LCID) を指定します。英語 (米国) の場合は、値 0x409 を入力します。
<code>-localDirectory <directory_path></code>	(Local Desktop のみ) ローカル デスクトップのダウンロードに使用するローカル システム上のディレクトリを指定します。ダウンロードしたローカル ファイルは、指定したディレクトリに直接保存されます。これに対して、ローカル ディレクトリを View Client で選択した場合は、選択したディレクトリの下にデスクトップ名のサブフォルダが作成され、ローカル ファイルはそのサブフォルダに保存されます。 このオプションを使用する場合、 <code>-desktopName</code> オプションも指定する必要があります。
<code>-logInAsCurrentUser</code>	<code>true</code> に設定している場合、クライアント システムにログインするときにエンド ユーザーが入力する資格情報を使用して View 接続サーバーインスタンスにログインし、最終的に View デスクトップにログインします。デフォルトは、 <code>false</code> です。
<code>-nonInteractive</code>	View Client をスクリプトから起動するときにエラー メッセージ ボックスを非表示にします。 <code>-unattended</code> オプションを指定すると、このオプションが暗黙のうちに設定されます。
<code>-password <パスワード></code>	View Client にログインするためにエンド ユーザーが使用するパスワードを指定します。キオスク モードのクライアントでパスワードを自動生成する場合は、このオプションを指定する必要はありません。
<code>-printEnvironmentInfo</code>	クライアント デバイスの IP アドレス、MAC アドレス、およびマシン名を表示します。
<code>-rollback</code>	(Local Desktop のみ) チェックアウトしたデスクトップのオンラインバージョンのロックを解除し、ローカル セッションを破棄します。 このオプションを使用する場合、 <code>-desktopName</code> オプションも指定する必要があります。 非対話モードでロールバックを実行するには、 <code>-nonInteractive</code> オプションと <code>-confirmRollback</code> オプションも指定します。
<code>-serverURL <connection_server></code>	View 接続サーバーインスタンスの URL、IP アドレス、または FQDN を指定します。
<code>-smartCardPIN <PIN></code>	エンド ユーザーがスマート カードを挿入してログインするときの PIN を指定します。

表 4-1. View Client コマンドライン オプション (続き)

オプション	説明
<code>-standalone</code>	PCoIP を介して同じまたは異なる View 接続サーバに接続できる View Client の第二のインスタンスを起動します。 同じサーバへの複数のデスクトップの接続では、セキュアトンネルの使用はサポートされません。異なるサーバへの複数のデスクトップの接続では、セキュアトンネルはサポートされます。 注意 第二のデスクトップ接続では、USB デバイス、スマートカード、プリンタ、および複数のモニタなどのローカルハードウェアへのアクセスはできません。
<code>-unattended</code>	キオスクモードのクライアントに適した非対話モードで View Client を実行します。次の値も指定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> ■ クライアントデバイスの MAC アドレスからアカウント名を生成しなかった場合は、クライアントのアカウント名。名前は、文字列「custom-」、または ADAM で定義した別のプレフィックス文字列で始まる必要があります。 ■ パスワードを自動生成しないようにクライアントのアカウントを設定した場合は、クライアントのパスワード。 <code>-unattended</code> オプションを指定すると、 <code>-nonInteractive</code> 、 <code>-connectUSBOnStartup</code> 、および <code>-connectUSBOnInsert</code> の各オプションも暗黙のうちに設定されます。
<code>-userName</code> <ユーザー名>	View Client にログインするためにエンドユーザーが使用するアカウント名を指定します。キオスクモードのクライアントでクライアントデバイスの MAC アドレスからアカウント名を生成する場合は、このオプションを指定する必要はありません。

コマンドラインまたは構成ファイルで指定するオプションは定義済みのグローバルシステムポリシーよりも優先され、定義済みのグローバルシステムポリシーはユーザーポリシーよりも優先されます。

`-checkin`、`-checkout`、`-file`、`-languageId`、`-localDirectory`、`-printEnvironmentInfo`、`-rollback`、`-smartCardPIN`、および `-unattended` を除くすべてのオプションを、Active Directory グループポリシーによって指定できます。

View Client の構成ファイル

構成ファイルから View Client のコマンドラインオプションを読み取ることができます。

`wsdc` コマンドの `-f` オプションに引数として構成ファイルのパスを指定できます。ファイルは Unicode (UTF-16) または ASCII テキストファイルである必要があります。

例: 非対話的アプリケーション用の構成ファイルの例

以下の例は、非対話的アプリケーション用の構成ファイルの内容を示します。

```
-serverURL https://view.yourcompany.com
-userName autouser
-password auto123
-domainName companydomain
-desktopName autodesktop
-nonInteractive
```

例: キオスクモードのクライアントの構成ファイルの例

以下の例は、アカウント名が MAC アドレスに基づくキオスクモードのクライアントを示しています。クライアントは自動的に生成されたパスワードを持ちます。

```
-serverURL 145.124.24.100
-unattended
```

View Client のレジストリ設定

View Client のデフォルト設定は、コマンドラインで指定する代わりに Windows レジストリで定義できます。

表 4-2 shows the registry settings for View Client. All the settings are located under `HKLM\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\` in the registry.

レジストリでの設定よりもポリシーの定義が優先され、ポリシーの定義よりもコマンドラインでの設定が優先されます。

表 4-2. View Client のレジストリ設定

レジストリ設定	説明
DomainName	デフォルトのドメイン名を指定します。
EnableShade	View Client ウィンドウの最上部のメニューバー（シェード）が有効かどうかを指定します。メニューバーは、キオスクモードのクライアントを除き、デフォルトで有効です。値 <code>false</code> はメニューバーを無効にします。
Password	デフォルトのパスワードを指定します。
ServerURL	デフォルトの View 接続サーバーインスタンスをその URL、IP アドレス、または FQDN によって指定します。
UserName	デフォルトのユーザー名を指定します。

サーバ接続とデスクトップの管理

View Client を使用して View 接続サーバまたはセキュリティ サーバに接続し、View デスクトップにログインまたはログオフします。トラブルシューティングのため、ユーザーに指定した View デスクトップをリセットすることもできます。

管理者による View デスクトップのポリシーの構成方法によっては、エンドユーザーはデスクトップで多くの操作を実行できるようになります。

この章では次のトピックについて説明します。

- [View デスクトップへのログイン \(P. 35\)](#)
- [デスクトップの切り替え \(P. 37\)](#)
- [デスクトップからのログオフまたは切断 \(P. 38\)](#)

View デスクトップへのログイン

エンドユーザーが仮想デスクトップにアクセスする前に、クライアント デバイスから仮想デスクトップにログインできることをテストします。[Start (スタート)]メニューから、またはクライアント システムのデスクトップショートカットから、View Client を起動できます。

ネットワーク接続が利用できる環境では、ユーザー セッションは View 接続サーバによって認証されます。

開始する前に

- ユーザー名とパスワード、RSA SecurID ユーザー名とパスコード、RADIUS 認証ユーザー名とパスコード、スマートカード個人識別番号 (PIN) などのログインに必要な認証情報を取得します。
- ログイン用のドメイン名を取得します。
- 管理タスクの実行については、[\[View Client 向けの View 接続サーバの準備 \(P. 13\)\]](#) で説明しています。
- 社内ネットワークの外部から接続し、仮想デスクトップへのアクセスにセキュリティ サーバを使用していない場合、使用しているクライアント デバイスが VPN 接続を使用していることを確認し、この接続をオンにします。

重要 VMware では、VPN よりもセキュリティ サーバの使用を推奨しています。

- 仮想デスクトップへのアクセスを提供する サーバの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を用意していることを確認してください。ポート番号が 443 ではない場合は、ポート番号も必要です。
- RDP 表示プロトコルを使用して View デスクトップの接続を計画している場合は、AllowDirectRDP View Agent グループ ポリシーが有効であることを確認してください。
- 管理者が許可している場合、View 接続サーバから提示される SSL 証明書について、証明書確認モードを構成できません。

使用するモードを決定するには、[\[View Client の証明書確認モード \(P. 30\)\]](#) を参照してください。

手順

- 1 [VMware Horizon View Client] デスクトップのショートカットをダブルクリックするか、[スタート]-[プログラム]-[VMware]-[VMware Horizon View Client] をクリックします。
- 2 [接続サーバ] ドロップダウン メニューで、View 接続サーバまたはセキュリティ サーバのホスト名を入力します。
- 3 ダイアログ ボックスの他のオプション設定が構成したとおりに表示されることを確認します。

オプション	説明
Log in as current user (現在のユーザーとしてログイン)	このチェック ボックスは、View Administrator でのグローバル設定に従って表示または非表示になります。ローカル モードで使用するために View デスクトップをチェックアウトする場合は、このチェック ボックスを選択しないでください。
ポート	このフィールドを空白のままにすると、デフォルト ポート 443 が使用されます。
自動接続	このチェック ボックスを選択した場合、次に View Client を起動すると [接続サーバ] フィールドが無効になり、[自動接続] チェック ボックスを選択したときに指定したサーバに接続されます。このチェック ボックスの選択を解除するには、次に表示されるダイアログ ボックスをキャンセルし、[オプション] をクリックしてこの設定を表示し、変更します。
SSL の構成	View 管理者が許可した場合、この手順の前提条件で説明したように、証明書確認モードを設定できます。

- 4 [接続] をクリックします。
ログイン ダイアログ ボックスが表示される前に、確認する必要があることを知らせるメッセージが表示される場合があります。
- 5 RSA SecurID の認証情報または RADIUS の認証証明書を入力を求められた場合、ユーザー名とパスコードを入力して [続行] をクリックします。
- 6 少なくとも 1 つのデスクトップ プールを使用する資格を付与されたユーザーの認証情報を入力し、ドメインを選択して [Login (ログイン)] をクリックします。
ユーザー名を **user@domain** という形式で入力すると、@ 記号があるために名前がユーザー プリンシパル名 (UPN) として扱われ、ドメイン ドロップダウン メニューは無効になります。
デスクトップ プールの作成およびユーザーに対するプールの資格付与については、『VMware Horizon View 管理ガイド』を参照してください。
- 7 表示されるデスクトップの一覧の中から、デスクトップを選択します。
 - a (オプション) [ディスプレイ] ドロップダウン メニューで、View デスクトップを表示するためのウィンドウ サイズを選択します。
選択した表示設定はデフォルト設定として保存され、次にデスクトップを開いたときに使用されます。
 - b (オプション) 表示プロトコルを選択するには、リスト内でデスクトップの隣の下矢印をクリックし、[表示プロトコル] をクリックし、プロトコルを選択します。
この選択は、View 管理者が選択を有効にしている場合にのみ可能です。PCoIP は、画像、オーディオ、ビデオなどのコンテンツを LAN または WAN 経由で配信して PC 上でスムーズに再生する目的に最適化されています。

注意 スマート カードの認証情報を使用してログインしている場合、プロトコルを切り替えるには、いったんログオフしてから再びログオンする必要があります。

選択したプロトコル設定はデフォルト設定として保存され、次にデスクトップを開いたときに使用されます。
- 8 [接続] をクリックします。
デスクトップに接続されます。

接続した後、クライアント ウィンドウが表示されます。

View 接続サーバへの認証が失敗する場合、または View Client がデスクトップに接続できない場合は、次の手順を実行します。

- View 接続サーバが SSL を使用しないように構成するかどうかを決定します。View Client は、SSL 接続を必要とします。View Administrator のグローバル設定で、[クライアント接続に SSL を使用する] チェックボックスが選択されていないかどうかを確認します。このチェックボックスが選択されていない場合、チェックボックスを選択して SSL を使用する必要があります。または、HTTPS が有効なロード バランサや View 接続サーバへの HTTP 接続を作成するように構成されている他の中間デバイスにクライアントが接続できるように環境をセットアップする必要があります。
- View 接続サーバ用のセキュリティ証明書が正常に動作していることを確認します。正常に動作していない場合は、View Administrator で、デスクトップの View Agent が到達不能になり、転送サーバのステータスが準備未完了として表示される場合があります。これらは、証明書の問題によって発生する二次的な接続の問題の現象です。
- View 接続サーバ インスタンスで設定されているタグがこのユーザーからの接続を許可していることを確認します。『VMware Horizon View 管理ガイド』を参照してください。
- ユーザーがこのデスクトップにアクセスする資格を付与されていることを確認します。『VMware Horizon View 管理ガイド』を参照してください。
- RDP 表示プロトコルを使用して View デスクトップに接続している場合、クライアント コンピュータでリモート デスクトップ接続が許可されていることを確認します。

次に進む前に

- 起動オプションを構成します。

エンド ユーザーが View 接続サーバのホスト名を指定する必要がないようにする場合、または他の起動オプションを構成する場合は、View Client のコマンドライン オプションを使用してデスクトップ ショートカットを作成します。

[第4章「コマンドラインからの View Client の実行 \(P. 31\)」](#)を参照してください。

- ローカル モードで使用できるデスクトップをチェックアウトします。

エンド ユーザーが特定のデスクトップをチェックアウトできるかどうかを確認するには、View Client with Local Mode のリストでそのデスクトップの隣の下矢印をクリックします。デスクトップをローカル モードで使用できる場合は、[Check out (チェックアウト)] オプションがショートカット メニューに表示されます。デスクトップにアクセスする資格がグループにある場合でも、そのデスクトップをチェックアウトするユーザーのみがデスクトップにアクセスできます。

デスクトップの切り替え

デスクトップに接続している場合に、別のデスクトップに切り替えることができます。

手順

- ◆ View デスクトップ メニュー バーから [[オプション]] - [[デスクトップを切り替え]] を選択し、表示するデスクトップを選択します。

Option	操作
同じサーバの View デスクトップを選択する	デスクトップ名が一覧表示されない場合、[[その他のデスクトップ]] を選択して、デスクトップ 選択一覧から別のデスクトップを選択します。
異なるサーバの View デスクトップを選択する	同じサーバ上に置きたくないデスクトップがある場合は、View Client を終了した後、再起動して、別のサーバに接続します。

デスクトップからのログオフまたは切断

ログオフせずに View デスクトップから切断すると、アプリケーションは開いたままになります。

View デスクトップを開いていなくとも、View デスクトップ オペレーティング システムからログオフできます。この機能を使用すると、デスクトップに <Ctrl> + <Alt> + を送信してから [ログオフ] をクリックするのと同じ結果になります。

注意 Windows のキーの組み合わせ <Ctrl> + <Alt> + は、View デスクトップではサポートしていません。<Ctrl> + <Alt> + の代わりに、メニュー バーから [デスクトップ] - [Ctrl+Alt+Del の送信] を選択することもできます。

あるいは、<Ctrl> + <Alt> + <Insert> を押します。

View デスクトップをローカル モードで使用している場合は、「[ローカル デスクトップのシャットダウンまたはサスペンド \(P. 52\)](#)」で説明されているようにデスクトップをサスペンドまたはシャットダウンすることができます。

手順

- ログオフせずに切断する。

オプション	操作
View Client も終了する	ウィンドウの隅にある [閉じる] ボタンをクリックするか、メニュー バーの [オプション] - [切断] を選択します。
同じサーバの異なる View デスクトップを選択する	メニュー バーから [オプション] - [デスクトップの切り替え] を選択します。
異なるサーバの View デスクトップを選択する	View Client を終了して再起動し、異なるサーバに接続します。

注意 View 管理者は、切断された時点で自動的にログオフするようにデスクトップを設定できます。その場合、デスクトップで開いているプログラムは停止します。

- デスクトップからのログオフおよび切断

オプション	操作
デスクトップのオペレーティング システムで	Windows の [スタート] メニューを使用してログオフします。
メニュー バーから	[オプション] - [切断してログオフ] を選択します。 この手順を使用すると、初めに、View デスクトップで開いているファイルが保存されずに閉じられます。

- View デスクトップが開いていない時にログオフします。

この手順を使用すると、初めに、View デスクトップで開いているファイルが保存されずに閉じられます。

- View Client を起動し、View デスクトップへのアクセスを提供する View 接続サーバに接続し、認証情報を入力します。
- デスクトップ選択リストが表示されたら、デスクトップの隣の下矢印をクリックし、[ログオフ] を選択します。

View デスクトップの操作

Horizon View は、エンド ユーザーが期待する、親しみやすくパーソナライズされたデスクトップ環境を提供します。エンド ユーザーは、各自のローカル コンピュータに接続された USB デバイスやその他のデバイスにアクセスしたり、ローカル コンピュータで検出できる任意のプリンタにドキュメントを送信したり、スマート カードで認証したり、複数のディスプレイ モニタを使用したりできます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [機能サポート一覧 \(P. 39\)](#)
- [国際化 \(P. 41\)](#)
- [USB デバイスの接続 \(P. 41\)](#)
- [Webcam とマイクロフォンでリアルタイム オーディオ ビデオ機能を使用 \(P. 44\)](#)
- [テキストとイメージのコピー アンド ペースト \(P. 46\)](#)
- [View デスクトップからの印刷 \(P. 47\)](#)
- [Adobe Flash の表示の制御 \(P. 48\)](#)
- [CAD および 3D アプリケーション用の相対マウス機能の使用 \(P. 48\)](#)

機能サポート一覧

RSA SecurID 認証、ロケーション ベースの印刷、および PCoIP プロトコルなどの多くの機能は、ほとんどのクライアント OS でサポートされています。この機能が View デスクトップ OS でサポートされているかどうかも考慮する必要があります。

エンド ユーザーにどの表示プロトコルと機能を使用できるようにするかを計画する場合、以下の情報を使用して、どのクライアント OS およびエージェント (View デスクトップ) OS がこの機能をサポートするかを判断します。

サポートされるゲスト OS のタイプとエディションは、Windows バージョンによって異なります。

表 6-1. View Agent のオペレーティング システムのサポート

ゲスト OS	バージョン	エディション	サービス パック
Windows 8	64 ビットおよび 32 ビット	Enterprise および Professional	該当なし
Windows 7	64 ビットおよび 32 ビット	Enterprise および Professional	なし、および SP1
Windows Vista	32 ビット	Business および Enterprise	SP1 および SP2
Windows XP	32 ビット	Professional	SP3

表 6-1. View Agent のオペレーティング システムのサポート (続き)

ゲスト OS	バージョン	エディション	サービス パック
Windows 2008 R2 Terminal Server	64 ビット	Standard	SP1
Windows 2008 Terminal Server	64 ビット	Standard	SP2

表 6-2. View デスクトップの OS でサポートされる機能 (View Agent がインストールされている場合)

機能	Windows XP	Windows Vista	Windows 7	Windows 2008	Windows 8
USB アクセス	○	○	○		○
RDP 表示プロトコル	○	○	○	○	○
PCoIP 表示プロトコル	○	○	○		○
個人設定管理	○	○	○		○
Wyse MMR	○	○			
リアルタイム オーディオ ビデオ	○ (Feature Pack 2 付き)	○ (Feature Pack 2 付き)	○ (Feature Pack 2 付き)	○ (Feature Pack 2 付き)	○ (Feature Pack 2 付き)
ロケーション ベースの印刷	○	○	○		○
仮想印刷	○	○	○		○
スマート カード	○	○	○	○	○
RSA SecurID または RADIUS	○	○	○	該当なし	○
シングル サインオン	○	○	○	○	○
複数のモニタ	○	○	○	RDP 7 付属	○
ローカル モード	○	○	○		○

表 6-3. Windows ベースの View Client でサポートされる機能

機能	Windows XP	Windows Vista	Windows 7	Windows 8
USB アクセス	○	○	○	○
RDP 表示プロトコル	○	○	○	○
PCoIP 表示プロトコル	○	○	○	○
個人設定管理	○ (ローカル モード未使用)	○ (ローカル モード未使用)	○ (ローカル モード未使用)	○ (ローカル モード未使用)
Wyse MMR	○	○		
リアルタイム オーディオ ビデオ	○ (Feature Pack 2 付き)	○ (Feature Pack 2 付き)	○ (Feature Pack 2 付き)	○ (Feature Pack 2 付き)
ロケーション ベースの印刷	○	○	○	○
仮想印刷	○	○	○	○
スマート カード	○	○	○	○
RSA SecurID または RADIUS	○	○	○	○
シングル サインオン	○	○	○	○
複数のモニタ	○	○	○	○
ローカル モード	○	○	○	○

各クライアント OS のどのエディションまたはサービス パックがサポートされるかについての詳細は、システム要件のトピックを参照してください。

上記の機能の詳細および制限事項については、『VMware Horizon View アーキテクチャ プランニング ガイド』を参照してください。

国際化

ユーザー インターフェイスとドキュメントは、英語、日本語、フランス語、ドイツ語、簡体中国語、繁体中国語、および韓国語で利用可能です。

USB デバイスの接続

View デスクトップから、小型のフラッシュドライブ、カメラ、プリンタなどのローカルで接続された USB デバイスを使用できます。この機能は USB リダイレクトと呼ばれます。

この機能を使用すると、ローカル クライアントシステムに接続されているほとんどの USB デバイスを View Client のメニューから使用できるようになります。デバイスの接続や接続解除にもこのメニューを使用します。

USB デバイスと View デスクトップの使用には、次のような制限があります。

- View Client のメニューから USB デバイスにアクセスして View デスクトップでデバイスを使用しているときには、ローカル コンピュータ上のデバイスにはアクセスできません。
- キーボードやポインティング デバイスなどのヒューマン インターフェイス デバイスを含め、メニューには表示されないが、View デスクトップには表示される USB デバイス。View デスクトップとローカル コンピュータはこれらのデバイスを同時に使用します。これらのデバイスとのやりとりは、ネットワーク遅延のため低速になる場合があります。
- 大容量 USB ディスク ドライブは、デスクトップに表示されるまでに数分かかる場合があります。
- USB デバイスによっては特定のドライバが必要になります。必要なドライバがまだ View デスクトップにインストールされていない場合、USB デバイスを View デスクトップに接続するとドライバのインストールを求められます。
- Android ベースの Samsung 製スマート フォンやタブレットなどの MTP ドライバを使用するデバイスを接続する予定がある場合、USB デバイスを View デスクトップに自動接続するように View Client を設定する必要があります。そうしないと、メニュー項目を使用して USB デバイスを手動でリダイレクトしようとしても、デバイスを取り外して接続し直さない限りリダイレクトできません。
- Webcam は、[USB デバイスを接続] メニューを使用する USB リダイレクトでサポートされません。webcam またはオーディオ入力デバイスを使用するには、リアルタイム オーディオ ビデオ機能を使用する必要があります。VMware Horizon View 5.2 Feature Pack 2 を併用すれば、この機能を使用できます。[[Webcam とマイクロフォンでリアルタイム オーディオ ビデオ機能を使用 \(P. 44\)](#)] を参照してください。
- USB オーディオ デバイスのリダイレクトは、ネットワークの状態に依存し、信頼できません。一部のデバイスでは、アイドル状態のときでさえ、高いデータ スループットが必要です。VMware Horizon View 5.2 Feature Pack 2 に含まれるリアルタイム オーディオ ビデオ機能があれば、オーディオ入力および出力デバイスは、この機能を使用して問題なく動作し、それらのデバイス用に USB リダイレクトを使用する必要はありません。

USB デバイスを View デスクトップに手動または自動で接続できます。

注意 USB イーサネット デバイスやタッチ画面デバイスなどの USB デバイスを仮想デスクトップにリダイレクトしないでください。USB イーサネット デバイスをリダイレクトすると、クライアントシステムはネットワーク接続を失います。タッチ画面デバイスをリダイレクトすると、View デスクトップはタッチ入力を受け付けますが、キーボード入力は受け付けません。仮想デスクトップと USB デバイスとの自動接続がすでに設定してあれば、特定のデバイスを除外するためのポリシーを構成できます。『VMware Horizon View 管理ガイド』の「USB デバイスのフィルタ ポリシー設定の構成」を参照してください。

重要 この手続きは、USB デバイスを View デスクトップに自動接続するように構成するための VMware Horizon View Client メニュー項目の使用方法を説明します。View Client のコマンドライン インターフェイスを使用するか、グループ ポリシを作成して自動接続を構成することもできます。

コマンドライン インターフェイスの詳細については、[コマンドラインから View Client を実行](#) を参照してください。グループ ポリシの作成についての詳細は、『VMware Horizon View 管理ガイド』を参照してください。

開始する前に

- View デスクトップで USB デバイスを使用するには、View 管理者が View デスクトップの USB 機能を有効にする必要があります。

このタスクには、View Agent の [USB リダイレクト] コンポーネントのインストールが含まれます。手順は、『VMware Horizon View 管理者ガイド』の仮想マシンの作成と準備についての章を参照してください。

このタスクには、USB リダイレクトを許可するためのグループ ポリシの設定も含まれる場合があります。詳細は、『VMware Horizon View 管理者ガイド』の「View Agent の USB 設定」、「View Client の USB 設定」、「コンポジット USB デバイスのデバイス分離ポリシー設定の構成」、および「USB デバイスのフィルタ ポリシ設定の構成」を参照してください。

- View Client のインストール時に、[USB リダイレクト] コンポーネントをインストールする必要があります。インストールでこのコンポーネントを含めなければ、インストーラを再実行して、コンポーネントを変更し、[USB リダイレクト] コンポーネントを含めます。

手順

- 手動で USB デバイスを View デスクトップに接続します。
 - a USB デバイスをローカル クライアント システムに接続します。
 - b [VMware Horizon View Client] メニュー バーから [USB デバイスを接続] をクリックします。
 - c USB デバイスを選択します。

デバイスは手動でローカル システムから View デスクトップにリダイレクトされます。

- ローカル システムに接続された時に、USB デバイスが自動的に View デスクトップに接続するように View Client を構成します。

Android ベースの Samsung 製スマートフォンやタブレットなどの MTP ドライバを使用するデバイスを接続する予定がある場合、この自動接続機能を使用する必要があります。

- a USB デバイスを接続する前に、View Client を起動して View デスクトップに接続します。
- b [VMware Horizon View Client] メニュー バーから [USB デバイスの接続] - [USB デバイスを自動接続] を選択します。
- c USB デバイスを接続します。

View Client を起動後にローカル システムに接続する USB デバイスは、View デスクトップにリダイレクトされます。

USB デバイスがデスクトップに表示されます。これには最大 20 秒かかります。デバイスをデスクトップに初めて接続すると、ドライバのインストールを求められる場合があります。

USB デバイスが数分経過してもデスクトップに表示されない場合、デバイスを切断してクライアント コンピュータに再接続してください。

次に進む前に

USB のリダイレクトで問題がある場合、『VMware Horizon View 管理ガイド』の USB リダイレクトのトラブルシューティングについてのトピックを参照してください。

USB デバイス再起動時に再接続するためのクライアント構成

USB デバイスを View デスクトップに自動接続するように View Client を構成していない場合、時々再起動する特定のデバイスに再接続するように View Client を構成できます。このように構成しない場合、アップグレード中にデバイスが再起動すると、デバイスは View デスクトップではなくローカル システムに接続します。

スマートフォンまたはタブレットなどの USB デバイスを接続する予定の場合、つまり、OS のアップグレード中に自動的に再起動する場合、特定のデバイスを View デスクトップに再接続するように View Client を設定できます。このタスクを実行するには、クライアントの構成ファイルを編集します。

View Client の [USB デバイスを自動接続] オプションを使用する場合、クライアント システムに接続するすべてのデバイスは、View デスクトップにリダイレクトされます。すべてのデバイスを接続したくない場合、以下の手順に従って View Client を構成すると、特定の USB デバイスだけが自動的に再接続されます。

開始する前に

デバイスのベンダ ID (VID) および製品 ID (PID) の 16 進数フォーマットを決定します。詳細については、<http://kb.vmware.com/kb/1011600> の VMware KB の記事を参照してください。

手順

- 1 テキスト エディタを使用してクライアントの `config.ini` ファイルを開きます。

OS バージョン	ファイルパス
Windows 7	C:\ProgramData\VMware\VMware USB Arbitration Service\config.ini
Windows XP	C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\VMware\VMware USB Arbitration Service\config.ini

- 2 特定のデバイスの `slow-reconnect` プロパティを設定します。

```
usb.quirks.device0 = "<vid>:<pid> slow-reconnect"
```

ここで、`<vid>:<pid>` は、デバイスのベンダ ID および製品 ID を 16 進数で表します。たとえば、以下の行は 2 台の USB デバイスにこのプロパティを設定します:

```
usb.quirks.device0 = "0x0529:0x0001 slow-reconnect"
```

```
usb.quirks.device0 = "0x0529:0x0001 slow-reconnect"
```

`usb.quirks.device<N>` デバイス プロパティを 0 から始まる順序で指定します。たとえば、行

`usb.quirks.device0` の後ろに `usb.quirks.device1` ではなく、`usb.quirks.device2` の行が続く場合、最初の行だけが読み込まれます。

スマートフォンおよびタブレットなどのデバイスが、ファームウェアまたは OS のアップグレードを受けると、デバイスは再起動され、それを管理する View デスクトップに接続するので、アップグレードが成功します。

Webcam とマイクロフォンでリアルタイム オーディオ ビデオ機能を使用

リアルタイム オーディオ ビデオ機能を使用すれば、View デスクトップでローカル コンピュータの webcam またはマイクロフォンを使用できます。

VMware Horizon View 5.2 Feature Pack 2 を併用すれば、この機能を使用できます。リアルタイム オーディオ ビデオのセットアップおよびフレーム レートおよび解像度の構成の詳細については、『VMware Horizon View Feature Pack のインストールと管理ガイド』を参照してください。

注意 この機能は、VMware Horizon View Client with Local Mode では使用できません。

Webcam を使用できる場合

Horizon View 管理者がリアルタイム オーディオ ビデオ機能を構成していて、PCoIP 表示プロトコルをユーザーが使用している場合、内蔵またはローカル コンピュータに接続された webcam をデスクトップで使用できます。Skype、Webex、または Google Hangouts などの会議アプリケーションで webcam を使用できます。

ローカル コンピュータに複数の webcam が接続されている場合、管理者は View デスクトップで使用される webcam に優先度を設定できます。どの webcam を選択するかが不明の場合は、Horizon View 管理者にお問い合わせください。

webcam がローカル コンピュータで現在使用中の場合、View デスクトップで同時に使用することはできません。また、webcam が View デスクトップで使用されている場合、同時にローカル コンピュータで使用することはできません。

重要 USB webcam を使用している場合、Horizon View Client の [USB デバイスを接続] メニューから接続しないでください。そうすると USB リダイレクトでデバイスがルートされ、パフォーマンスはビデオ チャットでは使用に適さない状態になります。

注意 Skype、Webex、または Google Hangouts などのアプリケーションを View デスクトップに設定中に、入力デバイスとして VMware Virtual Microphone および VMware Virtual Webcam、そして出力デバイスとして VMware Virtual Audio をアプリケーションのメニューから選択できます。ただし、この機能は多くのアプリケーションで動作し、入力デバイスの選択は不要です。

優先される Webcam を選択

リアルタイム オーディオ ビデオ機能があり、クライアント システムに複数の webcam がある場合、1 台だけが View デスクトップで使用されます。どの webcam を優先するかを指定するために、レジストリ キー値を設定できます。

優先される webcam は、使用できる場合は View デスクトップで使用され、使用できない場合は他の webcam が使用されます。

開始する前に

- USB webcam がインストールされ、クライアント システムで動作できる状態であることを確認します。
- View デスクトップで PCoIP 表示プロトコルを使用していることを確認します。

手順

- 1 使用する webcam を接続します。
- 2 呼び出しを開始し、そして呼び出しを停止します。

このプロセスでログ ファイルが作成されます。

- 3 テキスト エディタでデバッグ ログ ファイルを開きます。

オペレーティング システム	ログ ファイルの場所
Windows XP	C:\Documents and Settings\username\Local Settings\Application Data\VMware\VDM\Logs\debug-20<YY-MM-DD-XXXXXX>.txt
Windows 7 または Windows 8	C:\Users\%username%\AppData\Local\VMware\VDM\Logs\debug-20<YY-MM-DD-XXXXXX>.txt

ログファイルのフォーマットは、`debug-20<YY-MM-DD-XXXXXX>.txt` で、`20<YY>` は年、`<MM>` は月、`<DD>` は日で、`<XXXXXX>` は数値です。

- 4 `[ViewMMDevRedir] VideoInputBase::LogDevEnum` のログ ファイルを検索し、接続される webcam を参照するログ ファイル エントリを探します。

以下は Microsoft Lifecam HD-5000 webcam を識別するログ ファイルの抜粋です:

```
[ViewMMDevRedir] VideoInputBase::LogDevEnum - 2 Device(s) found
```

```
[ViewMMDevRedir] VideoInputBase::LogDevEnum - Index=0 Name=Integrated Webcam
UserId=vid_1bcf&pid_2b83&mi_00#7&1b2e878b&0&0000
SystemId=\\?\usb#vid_1bcf&pid_2b83&mi_00#
```

```
[ViewMMDevRedir] VideoInputBase::LogDevEnum - Index=1 Name=Microsoft LifeCam
HD-5000 UserId=vid_045e&pid_076d&mi_00#8&11811f49&0&0000
SystemId=\\?\usb#vid_045e&pid_076d&mi_00#
```

- 5 優先される webcam のユーザー ID をコピーします。

たとえば、`vid_045e&pid_076d&mi_00#8&11811f49&0&0000` をコピーして、デフォルトの webcam として Microsoft LifeCam HD-5000 を設定します。

- 6 Registry Editor (`regedit.exe`) を起動し、`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\VMware, Inc.\VMware VDM\RTAV` を指定します。

- 7 `REG_SZ` 値の `[srcWCamId]` に文字列の ID 部分を貼り付けます。

たとえば、`vid_045e&pid_076d&mi_00#8&11811f49&0&0000` を `[srcWCamId]` に貼り付けます。

- 8 変更を保存してレジストリを終了します。

- 9 新しい呼び出しを開始します。

デフォルト マイクロフォンを選択

クライアントシステムに複数のマイクroフォンがある場合、1 つだけが View デスクトップで使用されます。デフォルトで使用するマイクroフォンを指定するために、クライアントシステムの [サウンド] コントロールを使用できます。

リアルタイム オーディオ ビデオ機能を使用すれば、オーディオ入力デバイスおよびオーディオ出力デバイスは、USB リダイレクトを使用せずに動作し、必要となるネットワーク帯域幅量は大幅に削減されます。アナログ オーディオ入力デバイスもサポートされます。

重要 USB マイクroフォンを使用している場合、Horizon View Client の [USB デバイスを接続] メニューから接続しないでください。これを行うと USB リダイレクトからデバイスをルーティングされるので、デバイスはリアルタイム オーディオ ビデオ機能を使用できません。

開始する前に

- USB マイクロフォンまたは他のタイプのマイクロフォンがインストールされ、クライアントシステムで動作できる状態であることを確認します。
- View デスクトップで PCoIP 表示プロトコルを使用していることを確認します。

手順

- 1 電話中の場合は電話を切ってください。
- 2 システムトレイのスピーカー アイコンを右クリックし、[デバイスのレコーディング] を選択します。
その代わりに、[コントロール パネル] から [サウンド] コントロールを開いて [レコーディング] タブをクリックできます。
- 3 [サウンド] ダイアログ ボックスの [レコーディング] タブで使用するマイクロフォンを右クリックします。
- 4 [デフォルト デバイスとして設定] を選択して [OK] をクリックします。
- 5 View デスクトップから新たに電話をかけます。

テキストとイメージのコピー アンド ペースト

管理者がこの機能を有効にすると、リモート View デスクトップとクライアントシステム間、または 2 台の View デスクトップ間でフォーマットされたテキストやイメージをコピー アンド ペーストできます。制限事項がいくつか存在します。

PCoIP 表示プロトコルを使用し、View 5.x 以降の View デスクトップを使用している場合、View の管理者は、クライアントシステムから View デスクトップへ、または View デスクトップからクライアントシステムへのコピー アンド ペースト操作のみを許可するように設定できます。また、双方向のコピー アンド ペースト操作を許可したり、これらの操作を禁止したりすることもできます。

管理者は、View Agent を View デスクトップに関連付けるグループ ポリシー オブジェクト (GPO) を使用して、コピー アンド ペーストの機能を構成できます。詳細については、『VMware Horizon View 管理者ガイド』の設定ポリシーの章の View PCoIP 一般セッション変数についてのトピックを参照してください。

サポートされるファイル フォーマットには、テキスト、イメージ、および RTF (Rich Text Format) が含まれます。クリップボードは、コピー アンド ペースト操作で 1MB のデータを処理できます。フォーマットされたテキストをコピーする場合、データの一部がテキストで、一部のデータはフォーマットされた情報となります。たとえば、800KB のドキュメントでは、200KB を超える RTF データがクリップボードに置かれるので、コピー時にデータが 1MB を超える場合があります。

大容量のフォーマットされたテキスト、またはテキストとイメージをコピーする場合、テキストとイメージをペーストする時は、プレーンテキストの一部またはすべてを見ることができませんが、フォーマットまたはイメージを見ることができないケースがあります。その理由は、3 種類のデータが分割されて保存される場合があるからです。たとえば、コピーされるドキュメントのタイプによっては、イメージはイメージまたは RTF データとして保存される場合があります。

テキストと RTF データが合計で 1MB 未満であれば、フォーマットされたテキストがペーストされます。RTF データは多くの場合分割できないため、テキストとフォーマットが 1MB を超える場合、RTF データは破棄されてプレーンテキストがペーストされます。

1 回の操作で選択したフォーマットされたテキストとイメージすべてをペーストできない場合、1 回の操作で小さいサイズをコピー アンド ペーストする必要があります。

View デスクトップとクライアントコンピュータのファイルシステム間でファイルをコピー アンド ペーストすることはできません。

View デスクトップからの印刷

View デスクトップから、仮想プリンタ、またはクライアント コンピュータに接続された USB プリンタで印刷を実行できます。仮想印刷と USB 印刷は競合せずに連携して動作します。

仮想プリンタ機能の印刷設定を行う

仮想印刷機能を使用すると、View デスクトップに追加のプリンタ ドライバをインストールする必要なく、エンド ユーザーが View デスクトップからローカル プリンタまたはネットワーク プリンタを使用できます。この機能で使用可能なプリンタごとに、データ圧縮、印刷品質、両面印刷、カラーなどの環境設定ができます。

ローカル コンピュータ上でプリンタを追加すると、View デスクトップで使用可能なプリンタのリストにもそのプリンタが追加されます。何も構成する必要はありません。その場合でも、管理者権限のあるユーザーは、仮想プリンタ コンポーネントとの競合をもたらすことなく View デスクトップにプリンタ ドライバをインストールできます。

重要 この機能は次の種類のプリンタには使用できません。

- USB リダイレクト機能を使用して View デスクトップの仮想 USB ポートに接続する USB プリンタ。

View デスクトップで仮想印刷機能を使用するには、View デスクトップから USB プリンタを切断する必要があります。

- ファイルに印刷するための Windows 機能

[Print (印刷)] ダイアログ ボックスで [Print to file (ファイルへ出力)] を選択しても動作しません。ファイルを作成するプリンタ ドライバを使用すると動作します。たとえば、PDF ライターを使用すると PDF ファイルに出力できます。

この手順は、Windows 7 または Windows 8 (デスクトップ) オペレーティングシステムの View デスクトップ用に記述されています。この手順は、Windows XP および Windows Vista のものと似ていますが、まったく同一というわけではありません。

開始する前に

View Agent の仮想印刷コンポーネントが View デスクトップにインストールされていることを確認します。View デスクトップ ファイル システムでは、ドライバは `C:\Program Files\Common Files\VMware\Drivers\Virtual Printer` にあります。

View Agent のインストールは、仮想マシンを View デスクトップとして使用するための準備に必要な作業の 1 つです。詳細については、『VMware Horizon View 管理ガイド』を参照してください。

手順

- 1 Windows 7 または Windows 8 View デスクトップでは、[スタート]-[デバイスとプリンタ] をクリックします。
- 2 [デバイスとプリンタ] ウィンドウで、ローカルで使用できるプリンタを右クリックし、[プリンタ プロパティ] を選択し、プリンタを選択します。
View デスクトップで、仮想プリンタは「<<プリンタ名>#:<番号>>」のように表示されます。
- 3 [プリンタ プロパティ] ウィンドウで、[デバイス設定] タブをクリックし、使用する設定を指定します。
- 4 [全般] タブで、[環境設定] をクリックして使用する設定を指定します。
- 5 [印刷設定] ダイアログ ボックスで、異なるタブを選択して使用する設定を指定します。
[ページ調整] の詳細設定については、VMware はデフォルト設定を推奨しています。
- 6 [OK] をクリックします。

USB プリンタの使用

View 環境では、仮想プリンタおよびリダイレクトされた USB プリンタは競合することなく共に動作します。

USB プリンタは、ローカル クライアント システムの USB ポートに接続されるプリンタです。印刷ジョブを USB プリンタに送信するには、USB リダイレクト機能を使用するか、仮想印刷機能を使用できます。USB 印刷は、ネットワーク状況によって、仮想プリンタよりも高速になる場合があります。

- 必要なドライバが View デスクトップにもインストールされていれば、USB リダイレクト機能を使用して USB プリンタを View デスクトップの仮想 USB ポートに接続できます。

このリダイレクト機能を使用すると、プリンタはクライアントの物理 USB ポートに接続されなくなるので、USB プリンタは、仮想印刷機能が表示されるローカル プリンタのリストには表示されません。つまり、ローカル クライアント マシンからではなく View デスクトップから USB プリンタに印刷できるということです。

View デスクトップで、USB プリンタは「<<プリンタ名>>」のように表示されます。

USB プリンタの接続方法の詳細は、「[USB デバイスの接続 \(P. 41\)](#)」を参照してください。

- 一部のクライアントでは、仮想印刷機能を代わりに使用して USB プリンタに印刷ジョブを送信できます。仮想印刷機能を使用する場合、View デスクトップとローカル クライアントの両方から USB プリンタに印刷でき、View デスクトップにプリンタ ドライバをインストールする必要はありません。

Adobe Flash の表示の制御

View 管理者は、View デスクトップに表示する Adobe Flash コンテンツについて、コンピューティング リソースを消費しすぎないように設計されたレベルに設定できます。場合によっては、これらの設定によって再生品質が低下することがあります。デスクトップのマウス ポインタを使用し、View 管理者が指定した Adobe Flash 設定を上書きすることができます。

Adobe Flash の表示制御機能は、Windows 上の Internet Explorer セッション、および Adobe Flash バージョン 9 および 10 のみ利用できます。Adobe Flash の表示品質を制御するには、Adobe Flash がフル スクリーン モードで実行されているではありません。

手順

- 1 View デスクトップの Internet Explorer で、関連する Adobe Flash コンテンツを参照し、必要に応じて開始します。
View 管理者が構成した Adobe Flash 設定によっては、フレームが欠けたり、再生品質が低下したりすることがあります。
- 2 再生中に、マウス ポインタを Adobe Flash コンテンツに移動します。
カーソルが Adobe Flash コンテンツにある間は、表示品質が改善されます。
- 3 品質の向上を保つには、Adobe Flash コンテンツの中でダブルクリックします。

CAD および 3D アプリケーション用の相対マウス機能の使用

CAD または 3D アプリケーションが Horizon View 5.2 デスクトップで使用されている時に PCoIP 表示プロトコルを使用する場合、相対マウス機能を有効にするとマウスのパフォーマンスが改善します。

ほとんどの状況で、3D レンダリングを必要としないアプリケーションを使用していれば、View Client は絶対座標を使用してマウス ポインタの移動に関する情報を伝達します。絶対座標を使用すれば、クライアントはマウスの移動をローカルで描画し、これはパフォーマンスが改善され、特に企業ネットワークの外にいる場合は顕著です。

AutoCAD やビデオ ゲームの再生などのグラフィックスを多用するアプリケーションを使用する必要がある業務では、絶対座標ではなく相対座標を使用する相対マウス機能を有効にしてマウスのパフォーマンスを改善できます。この機能を使用するには、View Client メニュー バーから [オプション]- [相対マウスを有効] を選択します。

注意 フル画面モードではなくウィンドウ モードで View Client を使用して相対マウス機能を有効にすると、マウス ポインタを View Client メニュー オプションに移動したり、View Client ウィンドウの外にポインタを移動できなくなることがあります。この状態を解決するには、<Ctrl>+<Alt> を押します。

相対マウス機能を有効にすると、企業ネットワークの外 (WAN) ではパフォーマンスが遅くなることがあります。

重要 この機能には Horizon View 5.2 デスクトップが必要で、デスクトップ プールで 3D レンダリングをオンにする必要があります。プールの設定および 3D レンダリングで使用できるオプションについての詳細については、『VMware Horizon View 管理ガイド』を参照してください。

ローカルモードのデスクトップで作業

ローカルモードの View デスクトップは、リモートデスクトップと同じように動作しますが、ローカルリソースを使用でき、ネットワーク接続は不要です。

View デスクトップをチェックアウトすると、デスクトップがクライアントコンピュータにダウンロードされ、ローカルで実行できるようになります。チェックアウトしている間に View デスクトップをサーバにバックアップし、ローカルデスクトップで行った変更内容を保存できます。

ローカルデスクトップを使用していないときは、デスクトップをシャットダウンまたはサスペンドできます。ローカルデスクトップの使用を終了したら、デスクトップをサーバにチェックインできます。または、デスクトップをロールバックして、実行した変更を破棄することもできます。

ローカルモードで View Client を使用するメリットの詳細については、『VMware Horizon View アーキテクチャプランニングガイド』を参照してください。

この章では次のトピックについて説明します。

- [ローカルモードデスクトップの最初のチェックアウト \(P. 51\)](#)
- [ローカルデスクトップのシャットダウンまたはサスペンド \(P. 52\)](#)
- [デスクトップのバックアップ \(P. 52\)](#)
- [デスクトップのチェックイン \(P. 53\)](#)
- [デスクトップのロールバック \(P. 53\)](#)
- [エンドポイントリソースの使用法の構成 \(P. 54\)](#)

ローカルモードデスクトップの最初のチェックアウト

エンドユーザーが View デスクトップをローカルモードで使用するために最初にチェックアウトするとき、チェックアウトとダウンロードの処理はいくつかの段階を経て行われるため、それ以降のチェックアウト操作よりも時間がかかります。

エンドユーザーが View Client にログインし、1 つ以上のデスクトップのリストが表示されたら、ユーザーはデスクトップに接続してからそのデスクトップをチェックアウトするか、最初にリモート接続せずにデスクトップをチェックアウトするかを選択できます。

重要 ログインしたときに [Log in as current user (現在のユーザーとしてログイン)] 機能を使用した場合は、デスクトップをチェックアウトできません。View Client を閉じて再起動し、[Log in as current user (現在のユーザーとしてログイン)] チェックボックスをオフにします。

エンドユーザーがデスクトップに接続してからそのデスクトップをチェックアウトする場合、ユーザーはリモートデスクトップからログオフされ、データセンター内の仮想マシンがロックされ、仮想マシンのコピーがエンドユーザーにダウンロードされます。

ダウンロードの完了後、エンドユーザーがローカル デスクトップを最初にパワーオンした時点で、いくつかのドライバがローカル デスクトップにインストールされます。インストールされるドライバの種類は、View デスクトップのオペレーティングシステムや、ローカル コンピュータのハードウェアおよびオペレーティングシステムによって異なります。View デスクトップで Windows XP オペレーティングシステムを実行する場合は特に、ドライバのインストール中に View デスクトップのパフォーマンスが低下します。

ドライバのインストールが完了すると、エンドユーザーはローカル デスクトップの再起動を指示されます。

注意 ゲスト OS の起動またはシャットダウン中に View デスクトップ ウィンドウ内をクリックすると、ポインタがウィンドウ内に残ることがあります。起動が完了して VMware Tools が実行されると、ポインタは解放されます。ポインタがデスクトップ ウィンドウ内に捕捉されている場合は、<Ctrl> + <Alt> キーを押すとポインタを解放できます。

ローカルの View デスクトップが使用する RAM 容量と CPU の個数は、ローカル コンピュータの性能によって異なります。View デスクトップでは NAT を使用してローカル コンピュータの IP アドレスと MAC アドレスを共有します。詳細については、「[エンドポイント リソースの使用法の構成 \(P. 54\)](#)」を参照してください。

ローカル デスクトップのシャットダウンまたはサスペンド

ローカル デスクトップを使用していないときは、デスクトップを閉じることができます。ローカル デスクトップをシャットダウンまたはサスペンドできます。

開始する前に

デスクトップでファイルを開いている場合は、それらを保存して閉じます。

手順

- ◆ View デスクトップの [オプション] メニューから、デスクトップを閉じる方法を選択します。

オプション	説明
サスペンドする	View Client を閉じる際に、すべての使用中プログラムを現在の状態で保存します。デスクトップに再接続すると、プログラムはサスペンドする前と同じ状態で再開します。 注意 デスクトップのサスペンドには、デスクトップのシャットダウンよりも時間がかかります。
ゲストのシャットダウン	View Client を閉じ、開いているすべてのプログラムを停止します。保存されていないデータは失われます。このオプションは、デスクトップに <Ctrl> + <Alt> + を送信してから [シャットダウン] をクリックするのと同じ結果になります。

タイトルバーの [閉じる] ボタンをクリックすると、View 管理者によるデスクトップの設定に応じて、デスクトップはサスペンドまたはシャットダウンされます。

デスクトップのバックアップ

デスクトップをサーバにバックアップし、ローカル デスクトップで行った変更内容を保存できます。

デスクトップをバックアップできるのは、View 管理者がこの機能を有効にしている場合のみです。

開始する前に

- デスクトップがチェックアウトされている必要があります。
- ネットワークに接続している必要があります。

手順

- ◆ デスクトップをバックアップします。

オプション	操作
View デスクトップから	システムトレイにある [VMware View] アイコンをダブルクリックしてバックアップダイアログボックスを開き、[バックアップを要求] をクリックします。
デスクトップ選択リストから	バックアップするデスクトップの横にある下矢印をクリックして [バックアップを要求] を選択します。

進行中のバックアップを一時停止するには、[バックアップを延期] をクリックします。バックアップを一時停止できるのは、View 管理者がこの機能を有効にしている場合のみです。

一時停止したバックアップを再開するには、[延期したバックアップをレジューム] をクリックします。

バックアップの状態を表示するトースト通知を無効にするには、[VMware Horizon View] トレイ アイコンを右クリックして [バックアップ通知を無効にする] を選択します。

デスクトップのチェックイン

ローカル デスクトップの使用を終了したら、デスクトップをサーバにチェックインできます。

View デスクトップをチェックインできるのは、View 管理者がこの機能を有効にしている場合のみです。

チェックイン中はデスクトップにアクセスできません。

開始する前に

- デスクトップがチェックアウトされている必要があります。
- ネットワークに接続している必要があります。

手順

- ◆ デスクトップをチェックインします。

オプション	操作
View デスクトップから	タイトルバーで、次のように選択します。[オプション]-[チェックイン]。
デスクトップ選択リストから	チェックインするデスクトップの横にある下矢印をクリックして [チェックイン] を選択します。

進行中のチェックインを一時停止するには、[チェックインを一時停止] を選択します。一時停止したチェックインを再開するには、[チェックインを再開] を選択します。進行中のチェックインをキャンセルするには、[チェックインをキャンセル] を選択します。

デスクトップがサーバにチェックインされ、チェックアウトを許可されている他のユーザーがチェックアウトできるようになります。

デスクトップをチェックインしても、クライアント コンピュータのディスク ドライブからローカル デスクトップ ファイルが削除されることはありません。

デスクトップのロールバック

ローカル デスクトップをロールバックすると、デスクトップで実行した変更は破棄されます。最後のチェックアウトまたはサーバへのバックアップよりも後に更新されたすべてのデータは失われます。

デスクトップをロールバックできるのは、View 管理者がこの機能を有効にしている場合のみです。

ロールバック中はデスクトップにアクセスできません。

開始する前に

- デスクトップがチェックアウトされている必要があります。
- ネットワークに接続している必要があります。

手順

- ◆ デスクトップをロールバックします。

オプション	操作
View デスクトップから	タイトルバーで、[オプション]-[ロールバック]。
デスクトップ選択リストから	ロールバックするデスクトップの横にある下矢印をクリックして [ロールバック] を選択します。

デスクトップはローカルでの動作を停止します。

デスクトップをロールバックしても、クライアント コンピュータのディスク ドライブからローカル デスクトップ ファイルが削除されることはありません。

エンドポイント リソースの使用法の構成

デフォルトでは、ローカルシステムで使用するためにチェックアウトされた View デスクトップは、そのホストのメモリおよび CPU の能力を利用します。デスクトップ上の仮想 NIC は、NAT を使用してホストの IP アドレスおよび MAC アドレスを共有します。このデフォルトの動作は変更できます。

メモリおよび CPU リソースのローカル使用量を上書きする

ローカル デスクトップがチェックアウトされた後、そのデスクトップでは vCenter Server で仮想マシン用に指定されているメモリおよび CPU の設定に関係なく、ローカルシステムのメモリおよび CPU の能力を利用できます。このデフォルトの動作は上書きできます。

デフォルトでは、ローカルモードで使用するためにチェックアウトされた View デスクトップに割り当てられる RAM の量は、クライアント ホスト上で利用可能な RAM の中の一定量に自動的に調整されます。

式では、ホストおよびゲストの View デスクトップ間で配分するために利用可能なメモリ容量が考慮されます。Windows XP オペレーティングシステムでは最低 512MB の RAM が必要です。32 ビットの Windows 8、Windows 7、または Windows Vista オペレーティングシステムでは最低 1GB の RAM が必要です。配分可能なメモリ容量は、ホスト上の RAM の合計容量から、ホスト OS とゲスト OS に最小限必要な RAM 容量を引いたものです。

表 7-2. ローカルの View デスクトップに割り当てられるメモリ

メモリ割り当て	Windows XP ゲスト	Windows 8、Windows 7、および Vista ゲスト
最小	512 MB	1 GB
ベスト エフォート	512MB + (利用可能量/2)	1GB + (利用可能量/2)
最大	2 GB	4 GB

たとえば、Windows 7 ホストに合計 2GB の RAM がある場合、Windows 7 View デスクトップをローカルで実行するには 2GB の RAM が必要です (RAM のうち 1GB がホストに、1GB がローカルの View デスクトップに割り当てられます)。ホストに 3GB の RAM がある場合、RAM のうち 1.5GB がホストに、1.5GB がローカルの View デスクトップに割り当てられます。

注意 メモリ割り当ての自動調整によって、ローカル デスクトップのメモリ容量が、vCenter Server で構成される容量よりも低い値に設定されることはありません。

同様に、ローカルの View デスクトップでは、その View デスクトップで Windows Vista 以降のオペレーティングシステムが動作している場合、クライアント ホストで利用可能な最大 2 個の CPU を使用できます。

デフォルト値を変更したり、設定の範囲を指定したりできます。設定はクライアント上のすべてのローカル デスクトップに適用できます。設定によっては、ユーザーがクライアント上で使用する資格を持つ特定の View Connection Server インスタンスの特定のデスクトップまたはすべてのデスクトップに適用できます。

これらのデフォルトを変更するには、Windows レジストリを設定を構成する必要があります。その後、グループ ポリシー オブジェクト (GPO) などの標準の Windows ツールを使用して、それらのレジストリ設定を展開できます。

開始する前に

- ローカル デスクトップが使用できる CPU を一定の数に設定する予定の場合は、ローカル デスクトップをパワーオフします。
- 設定の範囲を指定できる場合が多いため、指定する必要がある識別子を調べます。

表 7-1. ローカル モードのリソース使用量に関するレジストリ設定で使用される識別子

範囲	変数名	説明
サーバ固有	<broker_guid>	View Connection Server インスタンスまたはグループのグローバル一意識別子。GUID を調べるには <code>vdmadmin -C</code> コマンドを使用します。
サーバおよびユーザー固有	<remote_user_sid>	エンド ユーザーのセキュリティ ID。View 接続サーバ ホスト上で ADSI Edit コーティリティを使用して、[CN=<machine_CN>,OU=Servers,DC=vdi,DC=vmware,DC=int] の [pae-SIDString] フィールドの値を確認します。
サーバ、ユーザー、およびデスクトップ固有	<desktop_ID>	View デスクトップの ID。View Connection Server 上で ADSI Edit コーティリティを使用します。ID は [DC=vdi,DC=vmware,DC=int] の [OU=Applications] にあります。デスクトップ ID は、デスクトップ プールの表示名を使用する識別名です：[CN=<pool_display_name>,OU=Applications,DC=vdi,DC=vmware,DC=int]

ブローカー GUID はクライアント コンピュータ上の `mvd1.lst` ファイルから探すこともできます。Windows XP では、ファイルの場所は `C:\Documents and Settings\\Local Settings\Application Data\VMware\VDM` フォルダです。ファイルを開き、`brokerGUID` を探します。リモート ユーザーのセキュリティ ID もこのファイルに含まれています。ファイルを開き、`user-sid` を探します。

手順

- vCenter Server で構成された量のメモリだけがローカル デスクトップで使用されるようにデフォルトの動作を上書きするには、次のいずれかのレジストリ キーを追加し、そのキーを 1 に設定する GPO を作成して展開します。

設定の範囲	パス
クライアント全体	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\disableOfflineDesktopMemoryScaleup
サーバおよびユーザー固有	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\ <broker_guid>\<remote_user_sid>\disableOfflineDesktopMemoryScaleup</remote_user_sid></broker_guid>

値 1 は `disableOfflineDesktopMemoryScaleup` がオンであることを示し、値 0 はオフであることを示します。

- View デスクトップがローカルで実行されているときに使用できるメモリを一定の量に設定するには、32 GB までの数値をメガバイト単位で指定する次のいずれかのレジストリ キーを追加する GPO を作成して展開します。

設定の範囲	パス
クライアント全体	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\offlineDesktopDefaultMemoryScaleupValue
サーバ固有	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\ <broker_guid>\offlineDesktopDefaultMemoryScaleupValue</broker_guid>

設定の範囲	パス
サーバおよびユーザー固有	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\ <broker_guid>\<remote_user_sid>\offlineDesktopDefaultMemoryScaleupValue</remote_user_sid></broker_guid>
サーバ、ユーザー、およびデスクトップ固有	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\ <broker_guid>\<remote_user_sid>\<desktop_id>\offlineDesktopDefaultMemoryScaleupValue</desktop_id></remote_user_sid></broker_guid>

この値を大きすぎる数値に設定すると、ローカルデスクトップがパワーオンせず、エラーメッセージが表示されます。

- クライアントホストで利用可能な量よりも多くのメモリを必要とするように構成されたデスクトップをチェックアウトするには、次のレジストリキーを追加する GPO を作成して展開します。このレジストリキーでは、ローカルクライアントが示す利用可能なメガバイト数を指定します。

HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\offlineDesktopReportedHostMemoryValue

この値に View デスクトップで必要とされるメモリ以上の値を設定すると、クライアントに仮想マシンを実行するための十分な予備メモリがあれば、View デスクトップをチェックアウトして実行できます。

設定の範囲	パス
クライアント全体	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\offlineDesktopReportedHostMemoryValue
サーバ固有	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\ <broker_guid>\offlineDesktopReportedHostMemoryValue</broker_guid>
サーバおよびユーザー固有	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\ <broker_guid>\<remote_user_sid>\offlineDesktopReportedHostMemoryValue</remote_user_sid></broker_guid>
サーバ、ユーザー、およびデスクトップ固有	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\ <broker_guid>\<remote_user_sid>\<desktop_id>\offlineDesktopReportedHostMemoryValue</desktop_id></remote_user_sid></broker_guid>

クライアントに十分な予備メモリがない場合は、`offlineDesktopReportedHostMemoryValue` 設定とともに、`offlineDesktopDefaultMemoryScaleupValue` 設定を使用できます。

たとえば、クライアントシステムに 2GB のメモリがあり、2GB のメモリを必要とするよう View デスクトップが構成されている場合は、クライアントがホストする仮想化でも一部のメモリが必要になるため、View デスクトップはチェックアウトできません。ただし、レジストリ設定 `offlineDesktopReportedHostMemoryValue = 2048` を使用すれば、デスクトップをチェックアウトできます。また、レジストリ設定 `offlineDesktopDefaultMemoryScaleupValue = 1024` を使用すれば、View デスクトップがローカルで実行されるときメモリを 1GB に制限できます。

- vCenter Server で構成された数の CPU だけがローカルデスクトップで使用されるようにデフォルトの動作を上書きするには、次のいずれかのレジストリキーを追加し、そのキーを 1 に設定する GPO を作成して展開します。

設定の範囲	パス
クライアント全体	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\disableOfflineDesktopCPUScaleup
サーバおよびユーザー固有	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\ <broker_guid>\<remote_user_sid>\disableOfflineDesktopCPUScaleup</remote_user_sid></broker_guid>

値 1 は `disableOfflineDesktopCPUScaleup` がオンであることを示し、値 0 はオフであることを示します。

- View デスクトップがローカルで実行されているときに使用できる CPU を一定の数に設定するには、CPU 数（最大 2 個）を指定する次のいずれかのレジストリ キーを追加する GPO を作成して展開します。

設定の範囲	パス
クライアント全体	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\offlineDesktopDefaultCPUScaleupValue
サーバ固有	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\ <broker_guid>\offlineDesktopDefaultCPUScaleupValue</broker_guid>
サーバおよびユーザー固有	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\ <broker_guid>\<remote_user_sid>\offlineDesktopDefaultCPUScaleupValue</broker_guid>
サーバ、ユーザー、およびデスクトップ固有	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\ <broker_guid>\<remote_user_sid>\<desktop_ID>\offlineDesktopDefaultCPUScaleupValue</broker_guid>

無効な値を指定すると、その値は無視され、デフォルト値が使用されます。ホスト上で利用可能な数よりも多い CPU 数を指定すると、ローカル デスクトップがパワーオンせず、エラー メッセージが表示されます。この値を 2 より大きい数に設定した場合は、値 2 が使用されます。

設定はローカル デスクトップがパワーオンされると有効になりますが、報告されるメモリの必要量が vCenter Server で設定されている量よりも少なくなることが許可される設定の場合は例外です。この設定は、デスクトップがチェックアウトされているときには読み取り専用になります。

NAT からブリッジへのネットワーク タイプの変更

デフォルトでは、ローカル システムで使用するためにデスクトップがチェックアウトされると、View デスクトップの仮想ネットワーク タイプが NAT（ネットワーク アドレス変換）に変更されます。この動作を上書きして、View デスクトップがネットワーク上で独自の ID を持つようにブリッジ ネットワークを使用することができます。

ブリッジ ネットワークでは、View デスクトップの仮想ネットワーク アダプタがホスト コンピュータの物理ネットワーク アダプタに接続されます。ブリッジ ネットワークを使用すると、View デスクトップがネットワーク上の他のコンピュータに対して可視になり、デスクトップに独自の IP アドレスが必要になります。

NAT では、仮想マシンがホストの IP アドレスと MAC アドレスを共有するように構成されます。View デスクトップとクライアント ホストが、ネットワーク上で単一の ID を共有します。

クライアント ホスト上のすべてのローカル デスクトップまたは特定のローカル デスクトップについてこれらのデフォルトを変更するには、Windows のレジストリ設定を構成する必要があります。その後、グループ ポリシー オブジェクト (GPO) などの標準の Windows ツールを使用して、それらのレジストリ設定を展開できます。

開始する前に

- 設定の範囲を指定できる場合が多いため、指定する必要がある識別子を調べます。

表 7-3. ローカル モードのリソース使用量に関するレジストリ設定で使用される識別子

範囲	変数名	説明
サーバ固有	<broker_guid>	View Connection Server インスタンスまたはグループのグローバル一意識別子。GUID を調べるには <code>vdmadmin -C</code> コマンドを使用します。
サーバおよびユーザー固有	<remote_user_sid>	エンド ユーザーのセキュリティ ID。View 接続サーバ ホスト上で ADSI Edit ユーティリティを使用して、 <code>[CN=<machine_CN>,OU=Servers,DC=vdi,DC=vmware,DC=int]</code> の <code>[pae-SIDString]</code> フィールドの値を確認します。
サーバ、ユーザー、およびデスクトップ固有	<desktop_ID>	View デスクトップの ID。View Connection Server 上で ADSI Edit ユーティリティを使用します。ID は <code>[DC=vdi,DC=vmware,DC=int]</code> の <code>[OU=Applications]</code> にあります。デスクトップ ID は、デスクトップ プールの表示名を使用する識別名です： <code>[CN=<pool_display_name>,OU=Applications,DC=vdi,DC=vmware,DC=int]</code>

ブローカー GUID はクライアント コンピュータ上の `mvd1.lst` ファイルから探すこともできます。Windows XP では、ファイルの場所は `C:\Documents and Settings\\Local Settings\Application Data\VMware\VDM` フォルダです。ファイルを開き、`brokerGUID` を探します。リモートユーザーのセキュリティ ID もこのファイルに含まれています。ファイルを開き、`user-sid` を探します。

手順

- ◆ ローカル デスクトップでブリッジ ネットワークが使用されるようにデフォルトの動作を上書きするには、GPO を作成および展開し、次のいずれかのレジストリ キーを追加して、そのキーを 1 に設定します。

設定の範囲	パス
クライアント全体	HKCU¥¥, Inc.¥VDM¥¥
サーバおよびユーザー固有	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\ <broker_guid>\<remote_user_sid>\offlineDesktopUseBridgedNetworking</remote_user_sid></broker_guid>
サーバ、ユーザー、およびデスクトップ固有	HKCU\Software\VMware, Inc.\VMware VDM\Client\ <broker_guid>\<remote_user_sid>\<desktop_id>\offlineDesktopUseBridgedNetworking</desktop_id></remote_user_sid></broker_guid>

値を 1 にすると、デスクトップでブリッジ ネットワークを使用するように設定されます。値を 0 にすると、NAT を使用するように設定されます (デフォルト)。

この設定は、エンドユーザーがローカル デスクトップをパワーオンしたときに有効になります。

View Client のトラブルシューティング

デスクトップをリセットまたは VMware Horizon View Client アプリを再インストールすることによって、View Client のほとんどの問題を解決できます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [View Client が予期せずに終了する場合の対処 \(P. 59\)](#)
- [デスクトップのリセット \(P. 59\)](#)
- [View Client のアンインストール \(P. 60\)](#)

View Client が予期せずに終了する場合の対処

ユーザーが終わらせたわけではないのに View Client が終了する場合があります。

問題

View Client が予期せずに終了する場合があります。View 接続サーバの構成によっては、「View 接続サーバ への安全な接続がありません」のようなメッセージが表示される場合があります。メッセージが表示されない場合もあります。

原因

この問題は、View 接続サーバへの接続が失われると発生します。

解決方法

- ◆ View Client を再起動します。View 接続サーバが再び実行するようになるとすぐに正常に接続できます。接続の問題が解決しない場合は、View 管理者へお問い合わせください。

デスクトップのリセット

デスクトップ オペレーティング システムが応答しなくなった場合、デスクトップのリセットが必要な場合があります。リセット操作を実行すると、デスクトップがシャットダウンおよび再起動されます。保存されていないデータは失われます。

View デスクトップをリセットする操作は、物理的な PC を強制的に再起動するためにその PC のリセット ボタンを押す操作に相当します。View デスクトップで開いているすべてのファイルが、保存されずに閉じられることになります。

デスクトップをリセットできるのは、View 管理者がこの機能を有効にしている場合のみです。

手順

- ◆ [デスクトップをリセット] コマンドを使用します。

オプション	操作
デスクトップのオペレーティングシステムで	メニューバーから [オプション]-[デスクトップをリセット] を選択します。
デスクトップ選択リストから	a View Client を起動し、View デスクトップへのアクセスを提供する View 接続サーバに接続し、認証情報を入力します。 b デスクトップ選択リストが表示されたら、デスクトップの隣の下矢印をクリックし、[デスクトップのリセット] を選択します。

View デスクトップのオペレーティングシステムは再起動されます。View Client はデスクトップから切断されます。

次に進む前に

View デスクトップに接続を試みる前に、システムを起動まで待機します。

View Client のアンインストール

View Client の問題は、VMware Horizon View Client アプリケーションをアンインストールして再インストールすると解決することがあります。

他のアプリケーションをアンインストールするときと同じ方法で View Client をアンインストールします。

たとえば、Windows オペレーティングシステムで使用できる [[プログラムの追加と削除]] アプレットを使用して VMware Horizon View Client アプリケーションを削除します。

アンインストールが完了したら、アプリケーションを再インストールできます。

[第 2 章 \[Windows 版 View Client のインストール \(P. 15\)\]](#) を参照してください。

インデックス

数字

3D アプリケーション 48

A

Adobe Flash ビデオ、制御 48

Adobe Media Server 10

C

CAD アプリケーション 48

Ctrl+Alt+Delete 38

Ctrl+Alt+Del メニューコマンド/ソウシン 38

+ キーによるマウスポインタの解放 51

F

Firefox、サポートされるバージョン 12

Flash URL リダイレクト、システム要件 10

I

Internet Explorer、サポートされるバージョン 12

M

Microsoft RDP 39

Microsoft Windows インストーラ

View Client のプロパティ 21

サイレント インストールのためのコマンドラインオプション 23

Microsoft Lync サポート 10

N

NIC 57

P

PCoIP 39

S

SSL 証明書、検証 29

T

ThinPrint のセットアップ 47

U

Unified Communications 10

UPN、View Client 35

URI (uniform resource identifiers) 25

URI 例 28

USB デバイス、View デスクトップで使用 39

USB デバイスの自動接続 41

USB プリンタ 47, 48

V

View Agent、インストール要件 12

View Client

インストールの概要 15

View Portal を使用したインストール 17

View Portal を使用したダウンロード 18

Windows PC またはラップトップでのインストール 15

Windows PC またはラップトップでのサイレントインストール 19, 20

Windows 版のシステム要件 7

起動 15, 35

構成 25

構成ファイル 33

コマンドの構文 31

コマンドラインから実行 31

サイレント インストール プロパティ 21

デスクトップから切断 38

トラブルシューティング 59

予期しない終了 59

レジストリ設定 34

View Client with Local Mode、サイレントインストールのグループ ポリシー 19

View Client 用の URI 構文 26

View Client のアンインストール 60

View Portal、ブラウザの要件 12

View コンポーネント、サイレント インストールのためのコマンドライン オプション 23

View 接続サーバ 13

View デスクトップ

チェックイン 53

ロールバック 53

View デスクトップカラセツダン 38

View デスクトップのチェックイン 53

View デスクトップのロールバック 53

VoIP (voice over IP) 10

W

webcam 44

Web ブラウザの要件 12

Windows、View Client のインストール 7

Windows コンピュータ、View Client のインストール 15

WSWC コマンド
構成ファイル 33
構文 31
Wyse MMR 9, 39

い
イメージ、コピー 46

え
エンドポイント リソースの使用法、構成 54

お
オペレーティング システム、View Agent でサポート
されている 12

か
カスタマー エクスペリエンス プログラム、デスクトッ
プ プール データ 13
仮想印刷機能 39, 47
仮想デスクトップへのログイン 35
仮想プリンタ 47
仮想プロファイル 39

き
機能サポート一覧 39

く
クライアント ソフトウェアの要件 7
クライアント デバイスの前提条件 13

こ
国際化 41

さ
サーバ証明書の検証 29
サーバ接続 35
サイレント インストール
View Client 19, 20
インストールを許可するグループ ポリシー 19

し
システム要件、Windows 版 7
証明書、問題の無視 29, 30
証明書確認の検証モード 29
シンクライアントのサポート 39

す
スマート カード認証、要件 11

せ
セキュリティ サーバ 13
接続、USB デバイス 41, 43

そ
相対マウス 48

て
テキスト、コピー 46
テキストとイメージのペースト 46
デスクトップ
サスペンド 52
シャットダウン 52
デスクトップ
切り替え 37
バックアップ 52
リセット 59
ローカル 51
ログオフ 38
デスクトップ ウィンドウ内に捕捉されたポインタ 51
デスクトップ ウィンドウ内に捕捉されたマウス 51
デスクトップから印刷 47
デスクトップの切り替え 37
デスクトップのサスペンド 52
デスクトップのシャットダウン 52
デスクトップのバックアップ 52
デスクトップのバックアップの一時停止 52
デスクトップのバックアップの延期 52
デスクトップのバックアップの再開 52
デスクトップのリセット 59
デバイス、USB 接続 41, 43

と
ドライバ、ローカル デスクトップ用にクライアント シ
ステムにインストール 51
トラブルシューティング 59

は
ハードウェアヨウケン、スマート カード認証 11
ハードウェア要件、Windows システム版 7

ひ
表示プロトコル
Microsoft RDP 39
View PCoIP 39

ふ
ブラウザの要件 12
プリンタ、設定 47

ま
マイクロフォン 45
マルチメディアのストリーミング 9
マルチメディア リダイレクト (MMR) 9

め
メディア ファイル形式、サポートされる 9

り

リアルタイム オーディオ ビデオ、システム要件 9
リモート デスクトップ、ログオフ 51

れ

レジストリ
View Client の設定 34
wswc コマンドの設定 34

ろ

ローカル CPU 使用量、上書き 54
ローカル デスクトップ 51
ローカル デスクトップ上の NAT 57
ローカル デスクトップの構成、ネットワーク タイプを
ブリッジに変更 57
ローカル デスクトップの使用、チェックアウト 51
ローカル デスクトップ用のブリッジ ネットワーク 57
ローカル メモリ使用量、上書き 54
ログオフ 38

